

# 総合教養科目

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
総合教養センター専任教員			
Subject Code：G11A01			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 戸板女子短期大学の歴史を理解し、大学生としての学びの基盤を形成することで、本学の学生として必要な教養と実践力の基礎作りをする。 (授業目標) ◎A：ものごとに対する興味と問題意識を持ち、仲間とともに積極的に課題に取り組むことができる。 B：自律した精神をもち他者と関わることができる。 ○C：そのときどきの状況を理解し、適切な判断のもとに行動することができる。 D：本学の歴史・教育理念を理解する。 短大生活を送るうえで必要とされるルール、スタディスキルを身につける。 E：ふさわしい手法を用いて自分の考えを論理的に表現できる。
授業計画	<p>1 戸板ゼミ概要、避難訓練 学長講演 戸板ゼミナールに関するガイダンス（白川） 本学の避難経路の説明と避難訓練の実施（苗村）</p> <p>2 初年次教育1 (4教室に分かれての授業) 大学生と倫理（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>3 学科別プログラム1 履修に関するガイダンス 学則に関するガイダンス (服飾：朝月、井上、楠、高橋 食物：谷口・吉川・西山・川嶋 国際：森田)</p> <p>4 初年次教育2 (4教室に分かれての授業) 大学生と倫理（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>5 初年次教育3 (4教室に分かれての授業) 大学生と倫理（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>6 初年次教育4 (4教室に分かれての授業) 大学生と倫理（白川） レポート・論文作成術（苗村）（グループワーク：グループワークシート完成） 大学での学びとは（村木） グループワーク（中村、高橋）（グループワーク：グループディスカッションと発表）</p> <p>7 特別講演1（ゲスト講師） TOITA Fes. 説明（学生部） 産学連携ワーク案内（中村・村木）（ICT:WebClass） 民法について（ゲスト講師）</p> <p>8 産学連携授業1 企業からの説明（総合教養教員他担当者） （ICT活用：WebClassにて事前課題を提示）</p> <p>9 産学連携授業2（グループワーク：グループワークシート完成） グループワークシート完成（総合教養教員他担当者）</p> <p>10 産学連携授業3（グループワーク：グループディスカッション） グループディスカッション（総合教養教員他担当者）</p> <p>11 産学連携授業4（グループワーク：ポスター制作と発表準備） ポスター制作と発表準備（総合教養教員他担当者）</p> <p>12 産学連携授業5（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会予選） プレゼンテーション大会予選（総合教養教員他担当者）</p> <p>13 特別講演2（ゲスト講師） 東京オリンピック・パラリンピックに向けて</p> <p>14 産学連携授業6（プレゼンテーション：プレゼンテーション大会決勝） プレゼンテーション大会決勝（総合教養教員他担当者）</p> <p>15 学科別プログラム2</p>

	服飾芸術科：夏期休暇に関する注意事項 / モデル別プレゼンテーション（朝月、井上、楠、高橋） 食物栄養科：夏期休暇に関する注意事項 / 定期試験指導（谷口・吉川・西山・川嶋） 国際コミュニケーション学科：夏期休暇に関する注意事項 / 各履修モデルによるプレゼンテーション（西岡）
到達目標・基準	◎A：ひとつひとつの課題に最後まで真摯に取り組むことができる。 B：自らの力を伸ばしたいという意志を大切にすることができる。 ○C：そのときどきの状況で適切とされる行動が何かを考える習慣を身につける。 D：本学の教育理念を簡単に説明することができる。 短大生活を送るうえで必要とされるルール、スタディスキルを身につけるための努力ができる。 E：自分の考えを整理してから相手に伝えることができる。
事前・事後学習	事前学習：プログラム、担当者等によるため、掲示やポータルサイトを通じての課題の指示にしたがうこと。（30分程度） 事後学習：プログラム、担当者等によるため、授業での指示にしたがうこと。（30分程度）
指導方法	講義、グループワーク、講演、産学連携プログラム等、さまざまな手法の授業となる。また、1年生前期の授業であるため、学生生活に関する注意事項や説明なども行う。初年次教育1～4については、1年生全員が4グループに分かれ、4週にわたって各プログラムを受講する。事前課題の配布等についてはWebClassを利用することができる。 フィードバックの仕方：課題提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
成績評価の方法・基準	A：課題、授業への貢献度を評価する。 B：課題、授業への貢献度を評価する。 C：課題、授業への貢献度を評価する。 D：課題によって評価する。 E：課題、授業への貢献度を評価する。  授業への貢献度50%、課題50%
テキスト	なし。適宜プリント等の資料を配布する。
参考書	総合教養センターが推薦している図書（図書館及び総合教養センターに設置）、ゲスト講師推薦の図書
履修上の注意	学科、クラス、学籍番号によって、スケジュールおよび教室などが異なることが多いため、毎回連絡や掲示を各自でしっかり確認し、まちがえることのないよう出席すること。また、座席確認・着席の時間も考えて早めに移動し、遅刻のないようにすること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClassでの事前学修課題提示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
吉川尚志、白川はるひ、苗村晶彦、村木桂子			
Subject Code : G11A02			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎科目である数学と国語をそれぞれ隔週で学修する。 (授業目標) ○C：適切な方法を用いて演習問題の正解を導き出すことで、論理的思考力を身につける。 ○D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。
授業計画	<p>1 非言語分野① 和差算、植木算</p> <p>2 言語分野① 小テスト：漢字書き取り 文章表現演習：400字作文 演習問題：二語の対応、熟語の意味 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>3 非言語分野② 鶴亀算、年齢算</p> <p>4 言語分野② 小テスト：二語の対応、熟語の意味 図書館の使い方、文献検索の方法（初年次教育） 文章表現演習：クリティカルシンキング（初年次教育） 演習問題：対義語・類義語</p> <p>5 非言語分野③ 代金の精算</p> <p>6 言語分野③（グループワーク） 小テスト：対義語・類義語 文章表現演習：アカデミック・ライティング（1）事実と意見（初年次教育） 演習問題：四字熟語、語句の用法 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>7 非言語分野④ 食塩水の濃度</p> <p>8 言語分野④（グループワーク） 小テスト：四字熟語、語句の用法 文章表現演習：アカデミック・ライティング（2）レポートの書きかた（初年次教育） 演習問題：同音異義・同訓異字</p> <p>9 非言語分野⑤ 損益算、分割払い</p> <p>10 言語分野⑤（グループワーク） 小テスト：同音異義・同訓異字、語句の用法2 文章表現演習：アカデミック・ライティング（3）出典・引用について（初年次教育） 演習問題：難読漢字、熟語のなりたち (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>11 非言語分野⑥ 旅人算</p> <p>12 言語分野⑥（グループワーク） 小テスト：難読漢字、熟語のなりたち 長文演習：長文演習 演習問題：漢字書き取り、慣用句</p> <p>13 非言語分野⑦ 覆面算、数列</p> <p>14 言語分野⑦（グループワーク） 小テスト：漢字書き取り、慣用句 文章表現演習：就職用作文 演習問題：漢字書き取り、ことわざ・故事成語</p> <p>15 非言語分野⑧ 言語分野⑧ 数学：仕事算 国語：模擬試験実施 (ICTの活用：e-learning)</p>
到達目標・基準	○C：基礎問題の解法について、順序だてて説明することができる。

	論理的な文章の基本型を理解し、書き上げることができる。 ◎D：基礎的な就職試験問題を解くことができる。
事前・事後学習	事前学習 【数学】授業内容を予習する。(30分程度) 【国語】小テストに向けてプリントやe-ラーニングの課題に取り組む。(30分程度) 事後学習 【数学】前回の課題プリントの解きなおしと毎回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度) 【国語】授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。文章課題を完成させる。(60分程度) ※<重要> 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する(数学・国語とも)。
指導方法	履修学生を8クラスに分け、数学と国語を隔週で指導する。 【数学】授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。 【国語】毎回、授業開始時に小テストを実施する。語彙力や文章力を伸ばすために、授業は講義と演習にて行う。パワーポイントを使用しての講義、ペアワークやグループワークを行う場合もある。授業で出された課題は週内に提出する。 フィードバックの仕方：小テストはその日のうちに採点し、再提出・再テストの指示を明記した状態で総合教養センターにて返却する。400字作文にはコメントをつけて返却する。 ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する(数学・国語とも)。
成績評価の方法・基準	C：課題の提出状況と定期試験で評価する。 D：課題の提出状況と定期試験で評価する。  定期試験 50%、 平常点(授業貢献度、課題) 50%
テキスト	【数学】テキスト：毎回プリントを配布する。 【国語】テキスト：毎回プリントを配布する。
参考書	『2019最新版 史上最強SPI&テストセンター超実戦問題集』オフィス海著(ナツメ社) 『レポート・論文の書き方入門 第3版』河野哲也著(慶応義塾大学出版会)
履修上の注意	【数学】プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントをファイリングすること。また、そのバインダーは毎回期日までに提出すること。 【国語】プリントの枚数が多くなるので、A4サイズのファイルを準備し、プリントをファイリングすること。 ※やむを得ず授業を欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと(数学・国語とも)。 ※学習内容の定着のために夏期セミナーの受講を勧める。
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク
I C Tの活用	e-learning教材の活用

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
吉川尚志、白川はるひ、苗村晶彦、村木桂子			
Subject Code : G11C03			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>大学における専門科目を学ぶためだけでなく、就職試験に向けて、また社会人としての礎を築くため、基礎科目である数学と国語をそれぞれ隔週で学修する。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○C：適切な方法を用いて演習問題の正解を導き出すことで、論理的思考力を身につける。 論理的な文章を書く力を身につけ、伝えることができる。</p> <p>◎D：一般的な就職試験問題を無理なく解くことができる。</p>
授業計画	<p>1 言語分野①(グループワーク) 小テスト：漢字書き取り 文章表現演習：視野を広げる(1) 社会問題について考える 演習問題：漢字の書き取り、熟語の意味</p> <p>2 非言語分野① 対応関係、順序と位置</p> <p>3 言語分野②(グループワーク) 小テスト：漢字の書き取り、熟語の意味 文章表現演習：視野を広げる(2) グローバル社会とは 演習問題：対義語・類義語</p> <p>4 非言語分野② 展開図、サイコロ</p> <p>5 言語分野③(グループワーク) 小テスト：対義語・類義語 文書表現演習：自己PR文(1) 演習問題：四字熟語、語句の用法 (ICTの活用：e-learningにて事後学修)</p> <p>6 非言語分野③ フローチャート、ブラックボックス</p> <p>7 言語分野④(グループワーク) 小テスト：四字熟語、語句の用法 文章表現演習：自己PR文を使ったワーク 演習問題：同音異義・同訓異字</p> <p>8 非言語分野④ 物流経路、PERT</p> <p>9 言語分野⑤(グループワーク) 小テスト：同音異義・同訓異字 文章表現演習：「学生時代に力を入れたこと」 演習問題：ことわざ、故事成語</p> <p>10 非言語分野⑤ 記数法、集合とベン図</p> <p>11 言語分野⑥ 小テスト：ことわざ、故事成語 文章表現演習：「学生時代に力を入れたこと」の文章推敲、仕上げ 演習問題：誤字直し</p> <p>12 非言語分野⑥ 順列と組合せ、確率</p> <p>13 言語分野⑦(グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト：慣用句、誤字直し ミニビブリオバトル 演習問題：難読漢字</p> <p>14 非言語分野⑦ 資料の読み取り、線形計画法</p> <p>15 言語分野⑧ 非言語分野⑧ 国語：模擬試験実施 数学：通過算、流水算 (ICTの活用：e-learning)</p>
到達目標・基準	<p>○C：標準問題の解法について、順序だてて説明することができる。 論理的な文章の基本型を理解し書き上げ、かつ伝えることができる。</p> <p>◎D：標準的な就職試験問題を解くことができる。</p>

事前・事後学習	<p>事前学習:  <b>【数学】</b> 授業内容を予習する。(30分程度)  <b>【国語】</b> 小テストに向けてプリントやe-ラーニングの課題に取り組む。(30分程度)          授業内容を予習する。小テストに向けてプリントやe-ラーニングの課題に取り組む。(30分程度)</p> <p>事後学習:  <b>【数学】</b> 前回の課題プリントの解きなおしと毎回の課題プリントを仕上げ、総合教養センターで検印をもらうまでしっかり取り組む。(60分程度)  <b>【国語】</b> 授業内容を復習する。小テストは合格点に達するまで繰り返し復習する。(60分程度)          配布された課題プリントに取り組み、授業内容を復習する。(60分程度)          ※&lt;重要&gt; 毎週、期限内に1F・総合教養センターへ課題を提出する(数学・国語とも)。</p>
指導方法	<p>履修学生を8クラスに分け、数学と国語を隔週で指導する。  <b>【数学】</b> 授業では毎回、課題を課すので、それを週内に提出する。希望者には自学用演習プリントを追加配布する。  <b>【国語】</b> 毎回、授業開始時に小テストを実施する。語彙力や文章力を伸ばすために、授業は講義と演習にて行う。パワーポイントを使用しての講義、ペア学習やグループ学習を行う場合もある。授業で出された課題は週内に提出する。          フィードバックの仕方: 小テストはその日のうちに採点し、再提出・再テストの指示を明記した状態で総合教養センターにて返却する。提出された文章課題には全体講評を通してフィードバックする。また、必要に応じて個別の添削指導等に対応する。          ※課題に関する質問には個別に総合教養センターにて対応する(数学・国語とも)。</p>
成績評価の方法・基準	<p>C: 課題の提出状況と定期試験で評価する。          D: 課題の提出状況と定期試験で評価する。</p> <p>定期試験 50%、平常点(受講貢献度、課題) 50%</p>
テキスト	<p><b>【数学】</b> 毎回プリントを配布する。  <b>【国語】</b> 毎回プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『2018最新版 史上最強SPI&amp;テストセンター超実戦問題集』 オフィス海著(ナツメ社)          『レポート・論文の書き方入門 第3版』 河野哲也著(慶応義塾大学出版会)</p>
履修上の注意	<p><b>【数学】</b> プリントの枚数が多くなるので、A4サイズの二穴バインダーを準備し、プリントを順次ファイリングすること。また、そのバインダーは毎定期日までに提出すること。  <b>【国語】</b> プリントの枚数が多くなるので、A4サイズのファイルを準備し、プリントをファイリングすること。          ※数学・国語とも、やむを得ず欠席した場合は、授業で配布したプリントを速やかに1F・総合教養センターまで取りに行き指示に従うこと。          ※学習内容の定着のために春期セミナーの受講を勧める。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション</p>
I C Tの活用	<p>e-learning教材の活用</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
山内明美			
Subject Code : G12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ①基本マナーの修得、②社会人基礎力の伸長、③ホスピタリティの実践が主な内容です。洗練された立ち居振る舞い、丁寧な言葉遣い等、就職活動でも活かせるマナーを身に付けるだけではなく、付加価値となるホスピタリティ力を実践し、戸板女子短期大学の理想の女性像の基盤を創ります。また、企業側の視点に立ち、その際に必要となるコミュニケーション力、発信力、対話力も磨いていきます。 (授業目標) ○B：信頼感を与える話し方、共感が伝わる聴き方ができる。マナーにかなっただ顧客対応や就職活動に臨むことができる。 ◎E：マナーの5原則を理解し、戸板女子短期大学の理想とする女性像となるような言動ができる。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（講義の目的と約束/演習：挨拶の極意/ホスピタリティとは）（グループワーク、ロールプレイ） 講義の目標と講義中の4つのルールを理解する。 何故挨拶が大切かを、極意で学ぶ。（正しい姿勢、綺麗なお辞儀、挨拶の後の言葉かけロールプレイ）。</p> <p>2 サービスとホスピタリティの語源を理解し、ホスピタリティの実践を目指す意識を高める。 コミュニケーションゲームを通して、きき手の態度や受け止め方の重要性を学ぶ。</p> <p>3 第一印象の演出法（演習：スマイルトレーニング） マナーの基本となる対応の5原則（視覚的要素、聴覚的要素）を理解する。 スマイルトレーニングでは、笑顔を科学的に分析し、常に口角の上上がった笑顔が出来るように練習する。 笑顔の効用を理解し、前向きに考える癖をつける。</p> <p>4 エレガントな身のこなし1（演習：ウォーキング、椅子の座り方・立ち方、O脚をなおす体操等） ビジネスウォークとエレガントウォークを覚え、颯爽とリズムカルに歩けるよう練習する。 入退室時の挨拶、椅子の座り方/立ち方、自己紹介、傾聴の姿勢を、一連の流れで出来るように練習する。</p> <p>5 敬語マスター術1（演習：敬語、接遇用語） 敬語の種類を整理し、尊敬語と謙譲語の違いを明確にする。 NGとされている言い回しと接遇用語を練習問題で繰り返し練習しながら覚える。 (ICT: Web Classにて復習)</p> <p>6 敬語マスター術2（演習：接遇話法） 接遇話法の使い方、クッション言葉+依頼形での話し方や湾曲な表現法を覚える。 実際の場面で応酬話法を用いて、綺麗な日本語で自分の思いを伝えられるよう練習する。 (ICT: Web Classにて復習)</p> <p>7 魅力的な話し方（演習：ボイストレーニング、発声発音の基本練習、スピード、イントネーションなど） アナウンサーと同じ練習法で信頼される声をつくる。 表現の3原則では、声の演出法（話すスピード、間の取り方、イントネーション、プロミネンス）を中心に、魅力的で印象に残る話し方が出来るように声を出しながら練習する。</p> <p>8 電話対応（演習：電話の特性、名乗り、電話慣用句）（グループワーク） 会ってみたいと思わせる名乗りが出来るよう、自分の話し癖を知る。 電話のかけ方、受け方の慣用表現を声に出しながら覚え、電話対応に自信を持つ。 人事への問い合わせ、お客様への留守電の残し方、商品問い合わせの受け答え、等、就活時と実際のビジネス場面での対応力をつける。 携帯電話での電話対応の留意点を理解する。</p> <p>9 積極的なきき方（演習：きき方5ポイント、アクティブリスニング、リフレクティングプラスワン話法） きき方5ポイントを覚え、きき姿勢を身につける。 相手の話を100%聴き取るリスニング力と質問力を磨く。 言葉で伝えていない思いに共感し、ホスピタリティを発揮しながら会話を続ける練習をする。</p> <p>10 来客訪問（演習：挨拶の口上、上座下座、ドアの開閉の仕方、お茶の出し方・いただき方）（ロールプレイ） 来客訪問時の流れを理解し、訪問側と対応側に応じたロールプレイで体得する。 湯茶供給時の留意点を学び、お茶の出し方、いただき方を実際に体験する。 応接室、乗り物、エレベーター等、シチュエーションに応じた上座、下座を覚える。 会社訪問時の面接マナーを習得する。 (ICT: Web Classにて復習)</p> <p>11 ホスピタリティコミュニケーション1（演習：挨拶のTPO、就活対応例）（グループディスカッション） マニュアル通りの言葉かけではない会話ができるよう場面に応じた言い回しを自分の言葉で話せるようになる。 企業側が期待する積極的で肯定的な表現を覚え、興味ある業界が求める人材に近づける。 (ICT: Web Classにて復習)</p> <p>12 ホスピタリティコミュニケーション2（演習：業界研究）（グループワーク） 販売のステップを覚え、物販サービス業界で求められる対応を学ぶ。</p>

	<p>自分と相手の間に立ちふさがる4つの壁を学び、ファーストアプローチ～好印象でスタートし、販売の流れに沿って、ステップを踏みながら商品提案が出来るように練習する。 アパレル、サービス業界が求める人材や業界指導での体験談を聞き、自分のキャリアイメージに繋げる。 グループ内で役割分担し、授業内で身に付けた表現力が発揮できる台本を作成する。 (ICT: Web Classにて資料作成)</p> <p>1 2 エレガントな身のこなし2 (演習: 物の授受、指し示し、ご案内、外国人との挨拶) TPOに合わせた動作のポイントを理解し、一つひとつの動きを覚える。 書類の手渡し、名刺の授受、指し示し、ご案内の仕方、ペンの渡し方をペアで何度も練習する。 外国人との挨拶、自己紹介を英語を交えて練習する。</p> <p>1 3 ビジネス文書の書き方 (演習: ビジネス文書の基本、封筒の書き方、メールの送り方) ビジネス文書の型を覚え、TPOに応じた文書作成ポイントを理解する。 封筒を使用し、字の大きさ、バランスのとり方、上座下座を考えながら練習する。 ビジネスルールに則った電子メールが送れる留意点を理解する。 インターンシップ先やお世話になった方への「お礼状」の書き方を覚える。</p> <p>1 4 接客ロールプレイ大会 (ロールプレイ) 販売のステップに沿った商品提案が出来るかグループ対抗戦で発表する。 マナーとホスピタリティの観点から客観評価し、今後習得すべきスキルを整理しながらキャリアイメージを描く。 (ICT活用: クリッカーにて投票)</p> <p>1 5 場面に応じた立ち居振る舞いと服装 (演習: 目的に応じた服装、慶事弔事の心得、パーティーマナー) (グループワーク、相互フィードバック) 面接時の持ち物、スーツ着用時のポイント、慶事弔辞での決まり、服装を学ぶ。 袱紗の使い方、祝儀袋の書き方、パーティーでの所作やテーブルマナー等、幅広い知識を覚える。 ロールプレイ大会入賞グループ発表。気づきをグループで共有する。 質疑応答。 (ICT: Web Classにて事前アンケート記入)</p>						
到達目標・基準	<p>○B: 丁寧な言葉で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。 ◎E: お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。</p>						
事前・事後学習	<p>事前学習: テーマごとに進めるのでテキストに目を通してから授業に臨む。Web Classでの課題に取り組む。(60分程度) 事後学習: 定期的な小テストを実施するので授業終了毎に事後学習をする。(60分程度) テーマごとの課題を分析し、反復練習し、ポイントを整理しておく。(60分程度)</p>						
指導方法	<p>・テーマ毎に①手本を示し、②ロールプレイで体得(個別指導も含む)、③学生相互で評価、④必要に応じ理想とする基準を示し、理解を深める。 ・講義内容により、①小テストを実施、②小テスト結果にコメント記載の上、返却、③授業内で正答確認、④授業後に質疑応答。理解度に応じて繰り返し行う。 フィードバックの方法: 小テストはコメント記載の上返却。演習は個別に改善ポイントをアドバイス。</p>						
成績評価の方法・基準	<p>B: 普段の授業で行うボイストレーニング及び授業を聴く態度で評価する。 E: 普段の授業での挨拶、立ち居振る舞い及び授業内での演習発表にて評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>ロールプレイ・プレゼンテーション</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト</td> <td>40%</td> </tr> </table>	ロールプレイ・プレゼンテーション	30%	定期試験	30%	授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト	40%
ロールプレイ・プレゼンテーション	30%						
定期試験	30%						
授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト	40%						
テキスト	<p>テキスト: 『マナー演習』 発行元: 株式会社アッサンプラージュ</p>						
参考書							
履修上の注意	<p>マナーとは国際的にも通用するコミュニケーション表現です。授業を通じて何故必要かを理解しながら、身に付けて下さい。反復練習することで意識せず自然に表現できるようになります。カリキュラムごとに授業を進めるので継続することでマナーへの関心と奥深さに気づきます。全授業に出席して、一生役に立つマナーを習得しましょう。授業内では、ホスピタリティの理解を高めるための気づきや業界別に求められる対応力をロールプレイで練習します。臨機応変な現場力も身につくので興味ある業種への情報収集をしておいてください。</p>						
アクティブ・ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決型学習</li> <li>・ディスカッション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・相互フィードバック</li> </ul>						
ICTの活用	<p>授業内・外での理解度を図るために、Web Classを活用する。 授業内で他の学生の相互評価を可視化するために、クリッカー、ビデオ撮影を活用する。 事前アンケートにより、学生の就職活動支援のためWeb Classを活用する。</p>						

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中山宏子			
Subject Code : G12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	（授業概要） ①基本マナーの修得、②社会人基礎力の伸長、③ホスピタリティの実践が主な内容です。洗練された立ち居振る舞い、丁寧な言葉遣い等、就職活動でも活かせるマナーを身に付けるだけではなく、付加価値となるホスピタリティ力を実践し、戸板女子短期大学の理想の女性像の基盤を創ります。また、企業側の視点に立ち、その際に必要となるコミュニケーション力、発信力、対話力も磨いていきます。 （授業目標） ○B：効果的な話し方、聴き方ができる。マナーにかなった電話対応や就職活動に臨むことが出来る。 ◎E：マナーの5原則を理解し、戸板女子短期大学の理想とする女性像となるような言動ができる。		
授業計画	1	オリエンテーション（講義の目的と約束／演習：挨拶の極意／ホスピタリティとは）（ロールプレイ） 講義の目標と講義中の4つのルールを理解する。 何故挨拶が大切かを、極意とロールプレイで修得する（正しい姿勢、綺麗なお辞儀）。 サービスとホスピタリティの語源を理解し、ホスピタリティの実践を目指す意識を高める。	
	2	第一印象の演出法（演習：スマイルトレーニング） マナーの基本となる対応の5原則（視覚的要素・聴覚的要素）を理解する。 スマイルトレーニングでは、笑顔を科学的に分析し、常に口角の上上がった笑顔が出来るように練習する。 笑顔の効用を理解し、前向きに考える癖をつける。	
	3	エレガントな身のこなし（演習：ウォーキング、椅子の座り方・立ち方、O脚を直す体操） ビジネスウォークとエレガントウォークを覚え、さっそうとリズムカルに歩けるよう練習する。 入室時の挨拶、椅子の座り方、自己紹介、立ち方を一連の流れで出来るように練習する。	
	4	エレガントな身のこなし（演習：物の授受、指し示し、ご案内、外国人との挨拶） 動作のポイントを理解し、一つ一つの動きを覚える。 履歴書、名刺の授受、指し示しの仕方をペアで何度も練習する。 外国人との挨拶、自己紹介を英語を交えて練習する。	
	5	敬語マスター術（演習：敬語、接遇用語） 敬語の種類を整理し、尊敬語と謙譲語の違いを明確にする。 NGとされている言い回しと接遇用語を練習問題で何度も練習しながら覚える。	
	6	敬語マスター術（演習：接遇話法） 接遇話法の使い方、クッション言葉＋依頼形での話し方や婉曲な表現法を覚える。 実際の場面で応酬話法を用い、綺麗な日本語で自分の思いを伝えられるよう練習する。	
	7	魅力的な話し方（演習：ボイストレーニング、発声・発音の基本練習、スピード、イントネーションなど） アナウンサーと同じ練習法で信頼される声をつくる。 声の演出法を覚え、印象に残る魅力的な話し方が出来るように練習する。	
	8	積極的な聞き方（演習：きき方5ポイント、アクティブリスニング、リフレクティングプラスワン話法） きき方5ポイントを覚え、きく姿勢を身につける。 相手の話を100%聴き取るリスニング力と質問力を磨く。 相手が言葉で伝えていない思いに共感し、ホスピタリティが発揮出来るように練習する。	
	9	電話対応（演習：電話の特性、名乗り、電話慣用句）（グループワーク） 会ってみたいと思わせる名乗りが出来るよう、話癖を知る。 電話のかけ方、受け方の慣用句を覚え、実際のビジネス場面での対応力をつける。 人事への問い合わせ台本（学外実習先申込等）を完成させ、気持ちを込めて話せるようになる。 （ICT:Web Classにてアンケート記入）	
	10	来客対応・訪問マナー（演習：挨拶の口上、ご案内、上座・下座、ドアの開閉、お茶の出し方・いただき方など）（ロールプレイ） 受付での取り次ぎ依頼～入室、着席～自己紹介、辞去の挨拶～退室までの一連の流れを、訪問側と対応側に応じたロールプレイで体得する。 お茶の入れ方、出し方、いただき方を実際にやってみる。 シチュエーションに応じた上座、下座を覚える。 （ICT:Web Classにて復習）	
	11	ホスピタリティコミュニケーション（演習：挨拶のTP0、業種別対応事例） マニュアル通りの言葉かけではない会話が出来るように自分の言葉で話す練習をする。 企業が求める対応力に近づき、興味ある業界が求める人材となる。 外国人客への対応が出来るように簡単な接客用語を練習する。（課題解決型授業） （ICT:Web Classにて復習）	
	12	業界研究（飲食サービスの現場を知る）（グループディスカッション） 飲食業界でのサービス対応力、業界で求められる人材を、現場でのサービスの流れを体験し、自分のキャリアイメージに繋げる。 面接時のNGを覚え、第一印象で加点出来るようにする。	
	13	ビジネス文書の書き方（演習：ビジネス文書の基本、封筒の表書き、メールの送り方） ビジネス文書の型を覚え、TP0に応じた文書作成力を身につける。	

	<p>実際の封筒を使用し、字の大きさ、バランスの取り方を覚える。          ビジネスルールに則った電子メールが送れるように練習する。          学外実習先等への「お礼状」の書き方を覚える。          キャリアビジョンを描く（演習：「私の理想の女性像」個別プレゼンテーション）（プレゼンテーション、相互フィードバック）</p> <p>各自の理想の女性像を具体的に考え、その理由と意気込みを一人づつ発表する。          自分の考えを発表することで、今やるべきこと、今後修得すべきスキルを、マナーとホスピタリティの観点から整理し目標達成への計画を立てる。          プレゼンテーションする姿を客観的にみることで、デリバリー技術の向上へ繋げる。          （ICT：クリッカーにて投票）</p> <p>1 5          場面に応じた服装（グループワーク）          面接時の持ち物、スーツ着用時のポイント、慶事弔辞での決まり、服装を学ぶ。          袱紗、祝儀袋の使い方、パーティでの所作、テーブルマナー等、幅広い知識を身に付ける。          授業を通じての気づきをグループで共有。          質疑応答。          （ICT:Web Classにて事前アンケート記入）</p>
到達目標・基準	<p>○B：丁寧な言葉で話し、相手の話に反応を示しながら会話ができる。          ◎E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：テーマごとに進めるのでテキストに目を通してから授業に臨む。Web Classでの課題に取り組む。          （60分程度）          事後学習：定期的に小テストを実施するので授業終了毎に事後学習をする。（60分程度）          テーマごとの課題を分析し、反復練習し、ポイントを整理しておく。（60分程度）</p>
指導方法	<p>・テーマ毎に①手本を示し、②ロールプレイで体得（個別指導も含む）、③学生相互で評価、④必要に応じ理想とする基準を示し、理解を深める。          ・講義内容により、①小テストを実施、②小テスト結果にコメントを記載の上返却、③授業内で正答確認、④授業後に質疑応答。理解度に応じて繰り返す。          フィードバックの仕方：小テストはコメント記載の上返却。演習は個別に改善ポイントをアドバイス。</p>
成績評価の方法・基準	<p>B：普段の授業で行うボイストレーニング及び授業を聴く態度で評価する。          E：普段の授業での挨拶、立ち居振る舞い及び授業内での演習発表にて評価する。</p> <p>ロールプレイ・プレゼンテーション 30%          定期試験 30%          授業態度、授業への貢献度、授業内で行う小テスト 40%</p>
テキスト	<p>テキスト：『マナー演習』 発行元：株式会社アッサンブラージュ</p>
参考書	
履修上の注意	<p>マナーとは国際的にも通用するコミュニケーション表現です。授業を通じてなぜ必要なのかを理解し、身につけてください。反復練習することで意識せずに自然に表現できるようになります。カリキュラムごとに授業を進めるので継続することでマナーへの関心と一生役立つマナーを修得出来ます。全授業に出席しましょう。業種別に求められるコミュニケーション力をロールプレイで練習します。現場で求められる対応力が身につくので積極的に参加することが重要です。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>・課題解決型学習          ・ディスカッション          ・グループワーク          ・プレゼンテーション          ・相互フィードバック</p>
ICTの活用	<p>授業内外での理解度を図るために、Web Classを活用する。          授業内で他の学生の相互評価を可視化する。          事前アンケートにより、学生の就職活動支援のためWeb Classを活用する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
松岡友子 山田真紀			
Subject Code : G12A04			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ホスピタリティあふれる、戸板女子短期大学の目指す理想の女性像に向けての第一歩となる授業です。まずマナー5原則の基本を身につけます。型にとどまらない心のこもったマナーがホスピタリティへとつながることを理解し、実践できるようにします。また、グループワークやペアワークで繰り返し練習することで、自分の魅力を自信をもって表現する力を身につけ、コミュニケーション力の向上へとつなげていきます。 (授業目標) ホスピタリティを表現するためのスキルとマインドを身につける。 ○B：相手と良好な関係を築くための効果的な話し方、聴き方ができる。面接の際のマナーや職種に応じたマナーを理解し、自信を持って就職活動に臨むことができる。 ◎E：マナーの5原則を理解し、女性として手本となるような言動ができる。サービス接遇検定3級に合格するだけの実力をつける。ホスピタリティを理解し、場面に応じた対応をスムーズに行える。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（ディスカッション：グループごとにまとめを発表、スピーチ：グループ内で一人ずつ発表） 講義の到達目標の確認と、授業の共通ルールの徹底 挨拶と自己紹介 マナーを学ぶ必要性を理解し、修得意識を高める 授業内で整えた自己紹介を振り返り、改善させるためにWebClassを入力する (ICT：WebClassで提出)</p> <p>2 第一印象の重要性（グループワーク、演習：グループ内でチェックしながら演習） 人間関係に大きく影響する第一印象の重要性を理解する 自身の強み、改善点を把握する 第一印象を向上させるためのポイント（表情・身だしなみ）を確認する (ICT：スマートフォンにて動画撮影)</p> <p>3 立ち居振る舞い（グループワーク、演習：グループ内でチェックしながら演習） 美しい立ち姿勢・お辞儀・座り方・歩き方・物の授受などを実習により修得する 一連の流れで実習し、定着させる</p> <p>4 サービス接遇実務検定試験対策（1） 試験の目的と心構え、意義を理解する 練習問題、解説により知識を得る</p> <p>5 美しい日本語（1）（グループワーク：グループ内で練習問題を解く） 尊敬語・謙譲語・丁寧語を正しく使いこなせるまで繰り返し練習し修得する</p> <p>6 美しい日本語（2）（グループワーク：グループ内で練習問題を解く） マジックフレーズを使えるよう練習する 間違いやすい言葉遣いに注意し、正しい言葉遣いを修得する 練習問題により理解度をはかり、課題を明確にする</p> <p>7 サービス接遇実務検定試験対策（2） 授業前にWebClass内の資料を参考に過去問題を解く 授業内で解説を受け、理解を深める 質疑応答により疑問を払拭する (ICT：WebClassにて事前学修)</p> <p>8 好感の持てる話し方（グループワーク、スピーチ：グループ内で一人ずつ発表） ボイストレーニングを行い、堂々とハキハキと話せるようにする 感じの良い話し方のポイントを理解し、実習する 感情豊かに自分を表現し、信頼される話し方で発表する 自身を客観視し、改善ポイントを抽出するためにスマートフォンで撮影する (ICT：スマートフォンにて動画撮影)</p> <p>9 積極的なきき方（グループワーク：グループで演習） 聴き方（傾聴力）・訊き方（質問力）などアクティブリスニングの方法を実習する ホスピタリティーが感じられる聴き方を修得する</p> <p>10 手紙の書き方 封筒の宛名書き・手紙の形式・書類送付状の書き方・メールの書き方を理解する</p> <p>11 電話対応（グループワーク、演習：グループ内で演習） 電話対応の特徴を理解し、印象の良い第一声を修得する かけ方、受け方のポイント、慣用表現を理解する 自身の声の印象を把握するためにスマートフォンで声を録音して聴く (ICT：スマートフォンにて音声録音)</p> <p>12 訪問のマナー（グループワーク、演習：グループメンバーと演習） 訪問前の準備・心構え・席次を理解する 受付でのマナー・取り次ぎ依頼を修得する ドアの開閉・ご案内・お茶の出し方・いただき方を修得する</p> <p>13 面接演習（1）（演習：グループ毎に演習） 当授業で学んだことのポイントを振り返り、演習前にイメージングする 一連の流れを演習し、自信を持ってできるようにする 自身を客観視し、課題を抽出するためにスマートフォンで撮影する</p>

	<p>(ICT：スマートフォンにて動画撮影) 面接演習(2) (演習：グループ毎に演習) 各々の課題に対する改善ポイントを理解し、さらに表現力を高める演習を行う 成果の確認のため、自身をスマートフォンで撮影する (ICT：スマートフォンにて動画撮影)</p> <p>14</p> <p>15 目標設定・発表 (スピーチ：グループ内で一人ずつ発表) 15回の授業を通して目指してきたマナーとホスピタリティの実践を振り返り、 理想の女性像を描き、到達のための行動目標を立てる</p>
到達目標・基準	<p>○B：スピードや声の大きさに配慮して話すことができる。傾聴を意識して感じのよい聴き方ができる。 ◎E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などで人に礼儀正しい印象を持たせることができる。ホスピタリティを意識し、マニュアル以上の対応をしようと努力できる。面接試験における入室から退室までの一連の流れを、動作と言葉を添えて行うことができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：事前に配布されたテキストには目を通してくる。サービス接遇検定の過去問題対策の前には問題演習を行う。(90分程度) 事後学習：前回までの授業内容を実生活で積極的に反復練習したり、WebClassで配信された資料がある場合は復習する。(60分程度)</p>
指導方法	<p>1. テーマごとにグループワークやペアワークでロールプレイを実施(個別指導も含む)し、体得する。 2. 講義や問題演習とも併用して確認する。 3. プロジェクター・パワーポイントなど、パソコン機器を利用する。 4. 内容によっては課題提出を課す。 課題によっては、WebClassを活用して提出や発表を行う。 フィードバックの方法：プレゼンテーションなどの発表にはタイムリーに口頭でアドバイスを行う。</p>
成績評価の方法・基準	<p>B：気持ちのこもった話し方、聴き方を心がけているかを評価する。 E：お辞儀、挨拶、身だしなみ、表情などがきちんなくても、礼儀正しい印象を持たせようとしているかを評価する。ホスピタリティを常に意識している姿勢を授業内でも示しているかを評価する。面接試験における入室から退室までの一連の流れを身につけようとしているかを評価する。</p> <p>演習・発表 30% 定期試験 30% 授業態度・授業への貢献度 40%</p>
テキスト	早稲田教育出版 実務技能検定協会編 サービス接遇検定実問題集3級/マナー演習レジュメ、プリント
参考書	
履修上の注意	<p>毎週の授業で反復練習することで、自然と身についたマナーを表現することができるようになります。 毎回の授業は前回までのマナーの積み重ねですので、休まず出席してください。 マナーに対する意識の向上に努めてください。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>ディスカッション グループワーク スピーチ</p>
ICTの活用	WebClass、スマートフォン

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	総合：必修
担当教員			
白川はるひ			
Subject Code : G12A05			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 自らのキャリア形成を考えるための入門編的授業である。労働市場や業界・職種・企業について、就職活動や社会人として求められる力について、また、自分自身について理解を深めていく。</p> <p>(授業目標) 社会情勢を客観的にとらえながら自分自身の生き方を多角的に考え、一生続くキャリア(=生き方)選択の力を養う。</p> <p>◎A：自らの目標を明確に掲げて学びの計画をたて、その計画に基づいた実践と省察を繰り返すことができる。</p> <p>◎C：社会情勢、労働、キャリア理論、および自己に対する理解を深め、卒業後の自らの生き方をより明確にする。</p>		
授業計画	1	自己分析① ・自己分析テストの実施	
	2	キャリアデザインとは ・授業に関するガイダンス ・本学キャリアセンターの役割(キャリアセンター) ・キャリアデザインとは何か	
	3	社会が求める力とは(グループワーク) ・就職試験にはどのようなものがあるか ・「汎用的能力」とは何か (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	4	自己分析2(グループワーク) ・自分の強み・価値観を考える ・キャリア理論を学ぶ① (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	5	自己分析3(ゲスト講師) ・自己分析テストの結果と解説 ・自己分析テストの結果をどのように活かすかを考える (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	6	PDCAをまわすとは(グループワーク) ・タイムマネジメントとは(初年次教育) ・効果的な目標の立て方を学ぶ(初年次教育) ・コーチングを体験する (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	7	人生100年時代の生き方を考える1(グループワーク) ・女性をとりまく社会の現状を理解する ・キャリア理論を学ぶ② (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	8	人生100年時代の生き方を考える2(グループワーク) ・就職サイトの説明(キャリアセンター) ・ライフプランを考える(ゲスト講師) ・キャリア理論を学ぶ③ (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	9	人生100年時代の生き方3(ゲスト講師) ・事例から学ぶ ・今後の労働市場について (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	10	プレゼンテーションの仕方(ゲスト講師) ・プレゼンテーションの基礎を理解する (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	11	業界・企業・職種研究1(ゲスト講師) ・業界への理解を深める (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	12	業界・企業・職種研究2(ゲスト講師) ・企業・職種への理解を深める① (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	13	業界・企業・職種研究3(ゲスト講師) ・企業・職種への理解を深める② (ICTの活用：Web Classにて事後学習)	
	14	前期の過ごし方を省察する(個人ワーク) ・省察とは何か。 ・前期の自らの過ごし方をふりかえり、自らの学びについてまとめる	
	15	前期のマイキャリアと今後のキャリア計画(プレゼンテーション)	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の目標と前期の学び・成長をもとに、今後の学修計画を考え発表する</li> <li>・キャリア理論を学ぶ④</li> </ul>
到達目標・基準	<p>◎A：目標にむけた計画書を作成し、その実践結果を省察することができる。</p> <p>◎C：社会の現状、業界や自分自身に関する理解等をもとに、自らの今後のあり方について説明することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習・・・1週間の自らの成長（学び、気づき、挑戦など）についての整理（30分） 配布された課題文の読みこみ あるいは ワークシートへの書きこみ（60分）</p> <p>事後学習・・・自らたてた行動計画の実践に関するふりかえり（30分） 授業内で指示された事後課題（小テスト、ふりかえり、ワークシートなど）への取り組み（60分程度）</p>
指導方法	<p>授業は原則として、パワーポイントやプリントを使用しての講義と、個人ワーク、グループワークで進められる。授業で学び、考え、計画をたてて実行し、それらをふりかえって次の授業に臨むという一連の流れが本授業では求められる。卒業後の目標をより具体的にし、前期のみずからの成長について説明する。配布物はすべてファイリングし、最終的にポートフォリオとして完成させる。</p> <p>フィードバックの方法： 提出物に対しては、必要に応じ全体講評を通してフィードバックする。質問には適宜応じる。 適宜ルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：提出物の内容、授業貢献度によって評価する C：提出物の内容、定期試験によって評価する</p> <p>定期試験30% 提出物50%、 授業への貢献度20%</p>
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	<p>大宮登 著『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』日経PB社, 2014 吉田あけみ 編著『ライフスタイルからみたキャリア・デザイン』ミネルヴァ書房, 2014 他</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークの多い授業である。履修者全員の力が伸びるよう、協力的に参加すること。</li> <li>・やむを得ず欠席をした場合は、総合教養センターまで配布物をとりにいくこと。</li> <li>・2穴ファイルを用意すること</li> </ul>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、個人ワーク
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
小野田奈穂			
Subject Code : G13C06			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要)</p> <p>心理学は、人の心のはたらきを研究する学問であり、学習心理学・発達心理学・性格心理学・社会心理学・臨床心理学等、多様な領域にわたる。多様な領域の中から、学生の関心が高く、また学生と関わりが深いと思われるテーマを選び、そのテーマについての理論や概念を学ぶ。日常生活に関連するような内容も含まれているので、各自考えを深め、生活の中で応用できるように具体的な例を多く出しながら講義をすすめる。</p> <p>(授業目標)</p> <p>○B：対人関係にまつわる心理学の理論を通じて、人の話を聴き、自分の考えを上手に伝える力を身につける。</p> <p>◎C：日常生活における様々な物事について新しい視点を知ること、物事を多面的に深く考えられるようになる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション 心理学とはどのような学問か？	
	2	感覚・知覚・認知 人はどのように環境や情報を捉えるのか	
	3	動機づけ “やる気”のこころの働きを知る	
	4	性格 心の個人差を考える	
	5	発達① 人の発達を学ぶ	
	6	発達② 人の発達を学ぶ	
	7	青年期の心理 青年期特有の心理発達を学ぶ	
	8	家族の心理 心理学の視点から家族を捉える	
	9	対人関係と恋愛心理 心理学の視点から対人関係と恋愛について考える	
	10	対人関係とコミュニケーション① (ロールプレイ、ディスカッション：体験して、話し合う) 自分の気持ちを上手に伝える方法を考える	
	11	社会の中の心理 他者や社会との関係を考える	
	12	ストレスの心理学 ストレスの仕組みと対処を考える	
	13	心理療法から学ぶ (ロールプレイ、ディスカッション：体験して、話し合う) 日常生活での工夫を学ぶ	
	14	勉強を頑張るコツ 勉強を頑張るコツを心理学の視点から考える	
	15	対人関係とコミュニケーション② (ロールプレイ、ディスカッション：体験して、話し合う) 人の話を上手に聴く方法を考える	
到達目標・基準	○B：実際の対人関係の場において、上手なコミュニケーションのための工夫を取り入れて応用できる。 ◎C：日常生活で当たり前として考えることになかったような物事にも違う視点があるということを知り、視野を広げて捉えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：生活の中で生じる疑問や相談したいような気がかりなことについて意識して考えてみる。(90分) 事後学習：自身の生活に照らし合わせながら、講義の内容を振り返る。(90分)		
指導方法	授業は原則として、プロジェクターを使用し、パワーポイントや図表等を示し、それに沿った講義を行う。また、心理学という学問を体験的に理解できるよう、簡単な心理検査等を体験できるようにする。ワークシートを使って日常生活に応用できるよう練習する。講義終了時に、毎回コメントペーパーを書かせ、疑問の解消や講義のふりかえりと整理を行えるようにする。 フィードバックの方法：コメントペーパーに書かれた疑問点や質問には次の回で答えるか、学生に問いかけて解決していく。		
成績評価の方法・基準	B：受講態度(コメントペーパー含む)と定期試験を評価する。 C：受講態度(コメントペーパー含む)と定期試験の記述回答を評価する。  定期試験70% 受講態度(コメントペーパー含む)30%		
テキスト	適宜プリントを配布する。		

参考書	『心理学』 東京大学出版会 『心理学の基礎 改訂版』 培風館
履修上の注意	他者の心理を読み取る術や他者を操作する方法などは心理学の学問ではないことを理解して受講すること（講義内容にもこのような内容は含まれていない）。心理学は、それぞれが自身の体験に引き付けながら学ぶことにより一層関心を持てる学問であるので、積極的に学ぶ姿勢を持って講義に参加することがのぞましい。授業中の私語や携帯の使用、途中退席等は厳禁。
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、ディスカッション
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
Subject Code : G13C07			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) この授業では文学を単に読解するのではなく芸術として全体を鑑賞する。芸術によって呼び起こされた“未だ知り得ない自分”を感じとり、それを表出することによって「自分にとってかけがえのないものとは何か」をさぐる楽しさを味わう。芸術に触発されてもごとの本質に触れることの奥深さ、喜びを味わい、心ふるえる経験を積み重ねることにより、生涯を通じて形成される教養・価値観・感性などの基盤づくりを目指す。 (授業目標) B：自分の意見を持ち、相手の意見も受け入れながらお互いを尊重し合うことができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、興味を持ったことがらについて主体的に情報を得、学びを深めることができる。 ◎E：自分なりの言葉を用い、授業で得たことについて表現することができる。
授業計画	1 オリエンテーション (ペアワーク) 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明、文学・絵画・彫刻・音楽それぞれの世界のもつ“ことば” (ICT：WebClass) 2 神谷美恵子『生きがいについて』 (グループディスカッション) 彫刻を鑑賞する、感じる、書く、話し合う (ICT：WebClass) 3 絵本『てぶくろを買いに』『泣いたあかおに』『おにたのぼうし』 (反転学習、ワールドカフェ) 異文化理解、相互理解 (ICT：WebClass) 4 詩：中原中也『在りし日の思い出』 (グループディスカッション) 天と地をつなぐもの (ICT：WebClass) 5 夏目漱石『夢十夜』 (グループディスカッション) 名作を色で味わう (ICT：WebClass) 6 太宰治『走れメロス』 (ペアワーク) 人は自分が予期するかたちで欲しいものを手に入れるとは限らない (ICT：WebClass) 7 東山魁夷という文学 (グループディスカッション) 絵画を鑑賞する、感じる、書く、話し合う (ICT：WebClass) 8 川端康成『雪国』 (ペアワーク) 名作を色彩・香り・音で味わう (ICT：WebClass) 9 手紙という文学 (ペアワーク) 誰に向かって書くのか 10 モーツァルト① (ペアワーク) 音楽を鑑賞する、感じる、書く、話し合う 11 モーツァルト② (グループディスカッション) 音楽を鑑賞する、感じる、書く、話し合う 12 モーツァルト③ (ペアワーク) 名作を鑑賞する、感じる、書く、話し合う 13 文学とAI (ペアワーク) 二つの間にあるもの (ICT：WebClass) 14 内村鑑三『代表的日本人』 (グループディスカッション) あなたにとっての「代表的日本人」とは (ICT：WebClass) 15 岸田劉生『美の本体』、九鬼周造『文学の形而上学』 事実と真実
到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾けながら、自分の意見も人に伝えることができる。 ○D：授業で得た知識を理解し、人に伝えることができる。 ◎E：授業で学び得たことについて味わい感じたことを、表現することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろから美術、音楽、文学などジャンルを問わずさまざまな芸術と出会う機会を持つ。(60分程度) 事後学習：授業で学んだことがらの要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。(60分程度) 授業中に紹介された本や資料を読み、芸術一般についての興味・関心を広げる。(60分程度)
指導方法	すぐれた芸術作品に触れ、演習(グループワーク、ディスカッション)を通して自分が感得したものと丁寧に向き合う。毎回200字～400字程度の文章を書きより深く芸術と交わる。正解よりも思考を深めることを重視す

	る。パワーポイントを中心に講義をおこない、必要に応じて視聴覚教材も使用する。 フィードバックのしかた：毎時間の提出物にコメントを書いて返却する。
成績評価の方法・ 基準	B：相手の意見を受け入れつつ、自分の意見も持つ積極的な姿勢を評価する。 D：提出物、試験によって評価する。 E：提出物、試験によって評価する。 定期試験：60%、授業後の提出物：30%、授業参加態度：10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見を交換しながらの演習があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラー ニング	グループディスカッション、ペアワーク、ワールドカフェ、反転学習
I C T の活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
Subject Code : G13C08			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 外国の「日本研究」は日本を「異文化」という視点からとらえているが、私たちがこうした視点を通して「自文化」を客観的にとらえ、「日本の文化」をあらためて見つめ直してゆきたい。自分が知らず知らずのうちに影響を受けている考えかた、行動の取りかたは、いったいどのような背景からくるものなのか、それを知り自覚することは、真のグローバル人に近づくための第一歩だともいえる。授業内で意見交換をしながら、日本の文化の基本的な知識を学ぶ授業である。 (授業目標) B：相手の意見を受け入れつつ自分の意見を持ち、お互いを尊重し合うことができる。 ◎D：授業で学び得たことについて整理し、自分なりに例を挙げながら説明することができる。
授業計画	1 オリエンテーション（グループディスカッション） 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明、異文化から見た日本 (ICT：WebClass) 2 日本人にとって美しさとは何か①（ペア・ワーク） 絵画や工芸を中心に (ICT：WebClass) 3 日本人にとって美しさとは何か②（ペア・ワーク） 絵と文字の交わり (ICT：WebClass) 4 日本の伝統文化：和紙（ペア・ワーク） 日本の紙の製造法、原料、そして現在の用法 (ICT：WebClass) 5 日本の伝統文化：和菓子（ペア・ワーク） 五感の総合芸術である和菓子とは (ICT：WebClass) 6 日本の伝統文化：歌舞伎（ペア・ワーク） 歌と舞踊と演技によって構成される総合芸術 7 日本にきた外国人 日本の面影①古事記 8 世界が憧れた日本人の生きかた（1）シンプル 日本の面影②単純（シンプル）さのなかに豊かさを見いだす 9 世界が憧れた日本人の生きかた（2）日本人のモラル 日本の面影③どんな相手も尊重する 10 世界が憧れた日本人の生きかた（3）微笑み 日本の面影④礼儀として微笑みを絶やさない 11 世界が憧れた日本人の生きかた（4）教養を身につける 日本の面影⑤必要な道徳心を備える 12 世界が憧れた日本人の生きかた（5）自然と共に生きる 日本の面影⑥共存共栄、中庸の精神 13 世界に示した日本人の生きかた 日本の面影⑦ 14 岡倉天心と新渡戸稲造（ペア・ワーク） 日本人の対外意識、外国文化の受け入れかた (ICT：WebClass) 15 後世に何を残したいか（ペア・ワーク） 日本文化の根底に流れるもの (ICT：WebClass)
到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎D：授業で学び得たことについて整理し、説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：日々ニュース・新聞の文化欄に目を通し、さまざまな文化に慣れ親しむ。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本文化についての要点を整理し、ノートや資料をまとめ理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本の文化についての興味・関心を広げる。（60分程度）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。意見交換を取り入れ、正解よりも思考を深める姿勢を重視する。適宜DVD等、視聴覚教材も利用する。 フィードバックのしかた：毎時間の提出物にコメントを書いて返却する。
成績評価の方法・基準	B：グループ・ワーク、意見交換の際に人の話をよく聞く態度や発言の積極性を評価する。 D：試験によって評価する。

	定期試験：60%、授業後の提出物：30%、授業参加態度：10%（総合的に評価する）
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	個人で取り組む課題や意見交換しながらの課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業における演習への参加と課題の提出が重要であるため、課題は必ず提出すること。受講者の興味・関心等に応じて授業計画が一部変更される場合がある。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ペア・ワーク
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
村木桂子			
Subject Code : G13C09			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国語力の四要素（話す・聞く・書く・読む）のトレーニングを総合的に積みあげるにより複眼的思考、論理的思考といった考えかたの基礎力を養う。ペア・ワークで課題に取り組むことによりコミュニケーション力高め社会で活用できる日本語の力を身につける。 (授業目標) B：他者の意見を受け入れつつ自分の意見を持ち、根拠を提示しながら人に発信することができる。 ◎E：授業で学んだ日本語表現について、実生活で応用して使用することができる。
授業計画	1 オリエンテーション（ペア・ワーク） 授業内容、授業の進めかた、評価方法に関する説明、言葉をめぐるワーク 2 日本語のふしぎ（ペア・ワーク） 日本語の特徴 3 リレー作文 書くための準備として 4 文章表現の工夫（ペア・ワーク） 表現の工夫いろいろ 5 描写のしかた（ペア・ワーク） 根拠ある意見の述べかた（初級） (ICT：WebClass) 6 絵の分析（1）（ペア・ワーク） 根拠ある意見の述べかた（中級） (ICT：WebClass) 7 絵の分析（2）（ペア・ワーク） 根拠ある意見の述べかた（上級） (ICT：WebClass) 8 テキスト分析（1）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（基礎） (ICT：WebClass) 9 テキスト分析（2）（ペア・ワーク） 論理的文章の書きかた（応用） (ICT：WebClass) 10 話し言葉と書き言葉（ペア・ワーク） 社会人基礎能力を身につけるために 11 日本語の文字（ペア・ワーク） 私たちが使用する文字の由来 12 美しく話す（ペア・ワーク） コミュニケーションの基礎 13 手紙・メール（ペア・ワーク） 書き言葉のコミュニケーション 14 敬語（ペア・ワーク） 相手意識を持つということ 15 オノマトペ（ペア・ワーク） 私たちの言語生活を豊かにするために
到達目標・基準	B：他者の言葉に耳を傾け、自分の意見を人に伝えることができる。 ◎E：授業で学んだ日本語表現について、実生活で使用することができる。
事前・事後学習	事前学習：日ごろからジャンルを問わずさまざまな本（活字）に触れ、多様な言葉の感覚を磨く。（60分程度） 事後学習：授業で学んだ日本語の知識について要点をおさえ、ノートや資料を整理し理解を深める。（60分程度） 授業中に紹介された本や資料を読み、日本語について興味・関心の幅を広げる。（60分程度）
指導方法	ペア・ワークを中心として、正解よりも考えることを重視した授業を行う。テーマごとに口頭演習した内容を文章で表現することにより、日本語コミュニケーション力を総合的に養う。講義は主にパワーポイントで進め、適宜視聴覚教材も利用する。 フィードバックのしかた：提出物にはコメントを書いて個別指導する。
成績評価の方法・基準	B：グループ・ワークにおける人の話をよく聞く態度や発言の積極性を評価する。 E：試験によって評価する。 定期試験：60%、授業中の課題提出30%、授業参加態度10%（総合的に評価する）

テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。
履修上の注意	ペア・ワークや個人で取り組む課題があるが、いずれも積極的な参加を期待する。授業中の演習参加と課題提出が重要である。演習に役に立つので、辞書（電子辞書も可）を準備して授業に臨むとよい。
アクティブ・ラーニング	ペア・ワーク
I C Tの活用	WebClass

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
大塚利恵			
Subject Code : G13C10			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) パソコンやスマートフォンの普及により文字を書く機会が減少した現代では、文字を書く力が急激に衰えています。この授業では、文字を受け取る側の気持ちを意識しながら、手本がなくても自分の力でバランスよく読みやすい文字を書く技術や、場面に適した書き方、履歴書やハガキなど社会生活で求められる書類の書き方を学習します。また、平仮名の歴史やペン字検定（硬筆書写技能検定）2級合格レベルを目標とした内容が学べるので、資格取得希望者は意欲的に学習できます。このように文字をどの場面でどう書くかの判断力を身につける練習を重ねることで文字を書く力の基礎を身につけます。 (授業目標) ○D：ペン字検定2級合格レベルを目標とし、文字の書き方の他にも平仮名の歴史や部首・旧字体の知識を身に付ける。 ◎E：手本がなくとも、どんな場面でも自分の力でバランスよく読みやすい文字（楷書・行書）を書く技術を修得する。
授業計画	<p>1 『文字を書くということ』 文字を書く上で、書く側の気持ちと、受け取る側の気持ちの両方を考えることは、非常に大切なことです。ここから、読みやすい文字を書くためのバランスのコツを学びます。</p> <p>2 『文字のバランス』 手本がなくても自分の力で文字をバランス良く書くための基本的なコツは5つです。とても単純明快なコツですので、一つ一つ丁寧に取り組み、文字バランスのコツを学びます。</p> <p>3 『楷書という文字の形』 文字のバランスが修得できたら、次に、社会生活のあらゆる場面で最も広く求められる実用的かつ基本的な文字の形である『楷書』という文字の書き方を学びます。</p> <p>4 『楷書を書く1・履歴書の書き方』 『硬筆書写技能検定合格講座1・理論・平仮名の字源』 ・社会人へのスタートで最初を書く『履歴書』。その基本的な書き方を学びます。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題される『平仮名の字源』を学びます。</p> <p>5 『楷書を書く2・履歴書の書き方』 『硬筆書写技能検定合格講座2・理論・平仮名の字源』 ・『履歴書』を楷書で正確に書く書き方をマスターします。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題される『平仮名の字源』を学びます。</p> <p>6 『楷書を書く3・様々な書類の書き方』 『硬筆書写技能検定合格講座3・理論・部首名』 ・社会生活で書く様々な書類のほとんどは楷書で書くことが基本的に求められます。色々な書類の書き方を学びます。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題される『部首名』を学びます。</p> <p>7 『楷書を書く4』 『硬筆書写技能検定合格講座4・理論・部首名』 ・楷書を自分の力で書きます。楷書の実践的な練習を繰り返し実施します。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題される『部首名』を学びます。</p> <p>8 『行書を書く1』 『硬筆書写技能検定合格講座5・理論・その他』 ・楷書よりもスピーディーにかつ美しく書ける『行書』を学びます。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題されるその他の問題に取り組めます。</p> <p>9 『行書を書く2』 『硬筆書写技能検定合格講座6・理論・旧字体』 ・行書を求められる場面を想定して、行書の書き方を学びます。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題される『旧字体』を学びます。</p> <p>10 『行書を書く3』 『硬筆書写技能検定合格講座7・理論・旧字体』 ・行書を自分の力で書きます。行書の実践的な練習を繰り返し実施します。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題される『旧字体』を学びます。</p> <p>11 『生活を豊かに彩る文字』 『硬筆書写技能検定合格講座8・理論・旧字体』 ・文字は、伝達のみではなく、時に生活の中に潤いをもたらすものとしても用いられます。色彩や様々な用具を用材を使って作品を作ります。 ・硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。2級理論問題に出題される『旧字体』を学びます。</p> <p>12 『硬筆書写技能検定合格講座9・実技・楷書と行書の書き分け・縦書と横書』 硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。最初は『楷書』と『行書』の書き分けと、『縦書』と『横書』のコツを学びます。</p> <p>13 『硬筆書写技能検定合格講座10・実技・葉書とポスターの書き方』 硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。『葉書』と『ポスター』の書き方を学びます。実生活の中で以前は重要な位置を占めていた葉書。現代は書く機会も減少しましたが、季節の移り変わりに、自分の手で文字を書くからこそ、お互いに心が温まるやりとりが実感できました。そんな葉書の書き方等を学びます。</p> <p>14 『硬筆書写技能検定合格講座11・実技・速書』 硬筆書写技能検定2級の実技対策講座です。最後は『速書き』です。実際に社会に出た際には、</p>

	<p>その場に適した文字を、仕事のスピーディーさに合わせて、迅速かつ適切に書きあげなければなりません。しかもその文字は『文字は人を表す』という言葉通り、自分以外の誰に対しても読みやすい文字でなければなりません。様々なシーンで求められる読みやすい速書を学びます。</p> <p>『実践的に文字を書く』</p> <p>社会生活で求められる様々な場面での縦書や横書き、楷書・行書を、実践的に繰り返し練習します。</p>
到達目標・基準	<p>○D：漢字がどのように形を変えて平仮名になったのかを説明できる。</p> <p>◎E：文字のバランスの基本的なポイントを理解し、線の角度や点の位置など、字の形を整えて読みやすい字を書く技術を修得する。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：なし</p> <p>事後学習：実技問題、理論問題、共に問題集を使用して繰り返し復習をすること。（90分）</p>
指導方法	<p>授業中は、文字バランスのポイントを理解しながら手本がなくとも自力でバランスの整った文字を書く練習を繰り返し、書きあげた作品や宿題を提出していただきます。提出内容は他にレポート等も含まれます。また、ペン字検定2級合格対策の問題集を使用し、2級合格レベルを目標としながら、部首や平仮名の元の漢字や旧字体に関する理論を繰り返し学習しますので、様々な提出物が必須となります。それらを添削しながら次の目標へと入っていく形式となります。</p> <p>フィードバックの方法：提出された作品や小テストは添削とコメントを記載のうえ返却します。</p>
成績評価の方法・基準	<p>D：小テストとレポートで評価する。</p> <p>E：実技試験で評価する。</p> <p>レポート：10%</p> <p>小テスト：10%</p> <p>実技試験：60%</p> <p>授業への貢献度：20%</p>
テキスト	<p>書籍名：硬筆書写技能検定1・2級合格のポイント（平成31年度版）</p> <p>後援：文部科学省</p> <p>著者：狩田巻山</p> <p>定価：本体1800円（税込：1944円）予定</p> <p>出版社：日本習字普及協会</p>
参考書	
履修上の注意	<p>文字を書き、添削指導を受け、書き直す、という繰り返し練習が基本となります。そのため、提出物が非常に多くなります。提出物を出すことが授業の原則です。</p>
アクティブ・ラーニング	
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
牧野唯			
Subject Code : G13C11			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 日本の住まいは気候風土や社会環境と深く結びついているだけではなく、家族やコミュニティに固有の生活論理をもっています。住まいを考えることは、ライフスタイルや個性を活かした暮らし方をコーディネートすることでもあります。住生活の視点から現代の住まいをとりまく諸問題をとりあげ、これからの住まいを創造する力を養います。 (授業目標) 住空間に対する理解をもとに、独自の提案を創造しコーディネートができること ◎C：住まいの現状と諸問題に対して、課題の解決方法を述べることができる ○D：住宅・建築の基礎的な知識・用語の説明ができる
授業計画	<p>1 ガイダンス 授業内容／授業のすすめかた／評価方法／次回の予習 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>2 住まいの様式①世界の建築・住宅 気候風土と住まい／環境共生／インテリア様式の変遷 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>3 住まいの様式②日本の住宅史 日本の伝統的建築／多様な住まい／伝統を活かしたインテリア ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>4 住まいの様式③現代の住まい モダンデザイン／建築材料／ユニバーサルデザインの今 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>5 住まいの機能①落ち着く場所 居場所の役割／趣味の部屋／寝室のインテリア ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>6 住まいの機能②食事・調理の空間 キッチン・台所の歴史／食事と文化／現代のダイニングルーム ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>7 住まいの機能③安全・安心のインテリア計画（実習：空間寸法の測定） 防災・減災／家具と収納計画／人間工学／環境心理 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>8 住まいの機能④おもてなしのインテリア 玄関の歴史／座敷の変遷／和洋折衷住宅／暮らしの中の和 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>9 住まいの快適性①光環境と照明（実習：光の測定） 光のコミュニケーション／照明デザイン／窓・装飾 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>10 住まいの快適性②色彩計画 色と文化／カラーコーディネーション／インテリアへの応用 ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>11 住まいの快適性③室内環境の調整 熱環境／音環境／換気・通風／持続可能な住まい ICT：WebClassにて予習・復習</p> <p>12 住まいのコーディネーション①基礎（実習：簡単な製図） 住宅平面の考え方／単位空間／生活様式／間取りの計画</p> <p>13 住まいのコーディネーション②基礎（実習：人体寸法の測定） 空間における家具・人の位置／パーソナルスペース</p> <p>14 住まいのコーディネーション③応用（プレゼンテーション：カラージュによる作品） 家族の変化／ライフスタイル／若年者・高齢者の住まい</p> <p>15 住まいのコーディネーション④応用（プレゼンテーション：カラージュによる作品） 地域とのつながり／ワークライフバランス／これからの住まい</p>
到達目標・基準	◎C：ライフスタイルや個性を反映させた住まいを提案することができる ○D：住居と生活のなりたちについて理解する
事前・事後学習	事前学習：テキストの内容をふまえて参考資料を収集する。本学図書館の参考図書を読む（1時間） 事後学習：WebClassによる復習、ワークシート・レポートの作成（2時間）
指導方法	視覚教材、WebClassを用いて授業を進めます。 講義の内容はテキストの予習を前提とし、WebClassの課題をもとに、参考資料を収集して積極的に授業へ参加してください。 また、理解を深め知識を定着するために、WebClassに演習問題を提示します。学習状況を把握するため、WebClassを活用し自主学習の取り組み状況、進展を確認します。作成したレポートは積極的に提出してください。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門知識の確認テスト (WebClassによる予習・復習)</li> <li>・室内環境の測定や製図等の作業によるワークシートの作成</li> <li>・中間演習 (テーマごとに理解度を確認、確認テストを行う)</li> <li>・期末課題 (レポート)</li> </ul> フィードバックの仕方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・WebClass①課題提出：指摘事項を記入しますので確認してください。②ワークシート：返却、指摘事項をもとに修正・再提出</li> </ul>
成績評価の方法・基準	C：課題の内容、レポートで評価する D：確認テストの結果、自主学習の進展で評価する ワークシート・レポート (40%)、中間演習 (30%)、期末課題 (30%)による
テキスト	『住まいのデザイン』朝倉書店、2015
参考書	インテリアコーディネーター ハンドブック統合版<上巻・下巻>、インテリア産業協会
履修上の注意	空間を理解するため、寸法をはかったり、図面に描いたりすることを習慣にしましょう。練習を積み重ねれば、誰でも上手に描けるようになります。室内環境の測定や製図等の作業を行いますので、手足を動かしながら学んでください。 なお、授業計画は学習の進捗状況等に応じて変更することがあります。
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション (定規、カッター、カッターマット、色鉛筆、糊を持参)
I C Tの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G13C12			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 「健康」という大きなテーマの中から、現代社会が及ぼす心身への影響について重点をおきながら、自身の「健康」とは何かを探る授業とする。 健康に関する知識を修得するとともに、グループワークを実施し、他者との意見交換を実施し自身の考えを深める。 (授業目標) ○A：学生間のグループ討議を通して積極的に人と意見交換を実施し、生涯に通ずる「健康」のあり方を自分自身で探ることができる。 ◎D：現代社会が及ぼす心身への影響についての知識を身につけることができる。
授業計画	1 ガイダンス 目的、授業における留意点、成績評価、自分にとっての健康とは何かを他者と共有する 2 健康の定義（グループワーク：グループごとにまとめを発表） WHOによる健康の定義 3 身体と教育 第二次世界大戦前～第二次世界大戦後～現代 4 現代社会と健康1 日本の健康問題 5 現代社会と健康2（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 世界の健康問題 6 現代社会におけるストレスと健康のかかわり1 身体の健康とメンタルヘルス 7 現代社会におけるストレスと健康のかかわり2 ストレスとストレスコーピング 8 人間関係 話す力と聞く力について考える 9 発達段階 年齢別の運動の意義 10 ライフスタイル1 健康と余暇活動を考える 11 ライフスタイル2 自分自身のライフスタイルを考える 12 高齢者の健康 生涯スポーツの紹介と意義 13 救急法 障害時の救急、災害時の対応 14 女性の健康（グループワーク：グループごとにまとめを発表） 女性の身体について 15 健康とは 生涯を通じて自分にとって健康とは何かを考える
到達目標・基準	○A：他者の意見を聴き、その上で自身の考えをまとめることができる。 ◎D：現代社会の課題について理解し、自身のライフスタイルと関連づけることができる。
事前・事後学習	事前学習：健康に関するニュースや本に眼を通すように心がける。（90分程度） 事後学習：授業で得た知識を一過性のもので終わらせないように、毎授業終了時にまとめプリントを作成する。また、個人で配布した資料を整理し、実践していくようにこころがける。（90分程度）
指導方法	講義は基本的にパワーポイントを使用して進める。 適宜、グループワークを取り入れる。 意見交換を積極的に行う中で「健康とは何か」を自覚できるようにする。 フィードバックの仕方：まとめプリント提出後、評価の上返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
成績評価の方法・基準	A：グループ討議での態度、授業への貢献度を評価する。 D：授業終了時のまとめプリント・レポート、定期試験を評価する。 受講態度10%、授業終了時のまとめプリント・レポート30%、定期試験60%
テキスト	なし 必要な資料・プリントをその都度配布する。

参考書	「健康管理能力検定3級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康管理能力検定2級公式テキスト」 一般財団法人 全国健康管理能力検定協会 監修 「健康・体力・スポーツ 大学生のための保健体育理論」 横浜保健体育理論研究会 編 学術図書出版 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生著 金子書房 「健康・運動の科学 介護と生活習慣病予防のための運動処方」 田口貞善監修 講談社
履修上の注意	自分にとっての健康とは何かを考えながら、積極的な姿勢で授業へ臨むこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
阿部かほり			
Subject Code : G13C13			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 子どもの発達の特徴について解説する。同時に、子どもにとってのあそびの発達の意義についての解説し、絵本やおもちゃなど実践的な紹介もおこなう。また、子どもや家族を取り巻く現代の環境と課題についても扱う。 (授業目標) 子どもの発達の道筋を知り、子どもが育つために必要な環境について理解を深められるようになること。 ◎C：子どもの発達を学び、子どもに必要な関わりや現代の子育てを取り巻く問題について自分なりの考えをもつことができる。 ○E：おもちゃ作りや絵本の読み聞かせなどの実践を通して、これまで自分の中に育ってきた感性を表現できる。
授業計画	1 オリエンテーション 授業の目的、内容、計画、子どもの養育に関する生涯発達心理学の考え方について説明する。 (クリッカー) 2 妊娠と出産 映画「うまれる」を題材にして、妊娠や出産、親としての成長について概説する。 (レポート① Web Classで提出) 3 胎児期から誕生まで 人間の胎児期の特徴について、概説する。 4 乳児期の発達(新生児期から1歳頃まで) DVD『赤ちゃん 不思議な成長の道のり』を題材に、新生児期から1歳ころまでの子どもの発達の特徴について、概説する 5 子どもにとってのあそびと学び(グループディスカッション) あそびは子どもの発達にどのような意味があるのかを概説する。 6 幼児期の発達①(2歳ころから就学前) 2歳ころから就学前の子どもの発達の特徴について、概説する。 7 幼児期の発達②(2歳ころから就学前) 2歳ころから就学前の子どもの発達の特徴について、概説する。 8 小学校への入学(グループディスカッション) 就学前の保育から小学校への接続期について扱う。小学校に入学するまでに身につけたい力について概説する、また、小学校に入学する子どもの発達の特徴について、概説する。 9 子どもとあそび①：手遊びの紹介と手作りおもちゃ 簡単な手作りおもちゃを製作する。材料、用具などについては、授業内で説明する。作品は提出する。(課題①) 10 小学校低学年 小学校低学年の児童の発達の特徴について、概説する。 11 現代社会に於ける子どもの発達と養育の課題 現代の子育てを取り巻く環境、保育制度、子育て支援制度について、課題点も含めて概説する。 12 子どもとあそび②：絵本(プレゼンテーション) 絵本の意義について理解を深めるため、各自絵本を1冊持ち寄って、読み聞かせをおこなう。 13 特別な配慮を必要とする子ども①：発達障害 子どもの発達障害について、障害の特徴と必要な援助、社会的な課題を概説する。 14 特別な配慮を必要とする子ども②：児童虐待と子どもの貧困 映画『誰も知らない』を題材に児童虐待と子どもの貧困について、社会的な課題を概説する。 (レポート② Web Classで提出) 15 子どもの発達を学ぶ意義 生涯にわたる生きる力を育むため、乳幼児期に必要な養育の環境についての総括をおこなう。自分自身の発達と関連付けて考える。 (クリッカー)
到達目標・基準	◎C：子ども自身が育っていく力と育つ環境を子どもの発達に関連づけることができる。 ○E：親子の関わりを豊かにするものとして、課題であるおもちゃ作りと絵本の読み聞かせができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読み、その年齢の頃の自分自身のことを思い出したり、家族に聞いたりして、用紙にまとめる。(60分) 子育てや教育に関するニュースの記事を探し、読んでおく。(60分) 事後学習：授業時に配布したプリントを見直し、自分なりの考えをまとめる。課題が出された場合、課題に取り組む。(60分)
指導方法	毎回、授業内容を記したプリントを配布する。パワーポイント、DVDなどの視聴覚教材を使用する。 フィードバックの方法：課題返却時にクラス全体に対して講評を行う
成績評価の方法・基準	C：定期試験の記述回答・レポートの内容を評価する。 E：製作したおもちゃの作品とあそび方を評価する。

	授業への意欲・態度20%、レポートと課題30%、定期試験50%で評価する。
テキスト	河原紀子監修・港区保育を学ぶ会『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』学研
参考書	授業の際に紹介する
履修上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用は禁止です。ただし、授業に関することで必要な場合のみ携帯電話の使用は可能。 絵本の実践演習の課題では、各自絵本を用意してもらいます。絵本は、自分が幼少期に読んでいたものなどを持ってきてください。買う必要はありません。近くの図書館などで借りてきてください。詳しくは授業内で説明します。
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
I C Tの活用	Web Class、クリッカー

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
岩立将史			
Subject Code : G13C14			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 国際社会に生きる日本人、または日本に居住する者として、海外の人々との相互理解を深めるための知識・教養を身につけることは重要である。そのための知識・教養として、現代日本の成り立ちを知ることができる日本近現代史は欠かすことができない。本授業では、「日本近現代史と女性」をテーマとして、解説を中心に授業を進める。女性をめぐる近現代の歴史的諸問題に関する討論も実施する。  (授業目標) ◎C：近現代の歴史的諸問題に対し、討論においてその現状と課題を挙げたうえで自分なりの意見を述べることができる。 ○D：近現代の歴史的的事象や諸問題について、おおむね説明できる。
授業計画	1 ガイダンス及び時代区分論 授業内容や進め方、評価方法などを把握するとともに、時代区分論について理解する。 2 明治維新と女性 明治維新の流れをつかむとともに、維新期に活躍した女性について理解する。 3 明治の女子教育と戸板裁縫学校 明治期の教育制度と戸板女子短期大学の前身である戸板裁縫学校の設立過程を理解する。 4 ディスカッション：テーマ「良妻賢母」 スマートフォン・タブレットPCを用いながら、明治期に求められた女性像「良妻賢母」についてディスカッションする。 5 大正期の社会と「新しい女」 大正期の社会と青鞥社の活動を理解する。 6 大衆社会におけるモダンガールの登場 大衆社会に向かう消費社会で登場したモダンガールについて理解する。 7 昭和の戦争と女性（1） 戦争が女性の生活や社会的立場に与えた影響を理解する。 8 昭和の戦争と女性（2） 戦争が女性の生活や社会的立場に与えた影響を理解する。 9 ディスカッション：テーマ「戦争とジェンダー」 スマートフォン・タブレットPCを用いながら、総力戦体制下におけるジェンダーについてディスカッションする。 10 港区の歴史 戸板女子短期大学が立地する港区の近世・近現代史を理解する。 11 戦後の民主主義化と女性 戦後の民主化と女性の解放を求める運動を理解する。 12 高度経済成長期と女性（1） 主婦の大衆化や主婦論争について理解する。 13 高度経済成長期と女性（2） 女性の社会的立場や恋愛観の変化について理解する。 14 バブル経済と女性 バブル経済と当該期の日本社会における女性の立場について理解する。 15 ディベート：テーマ「ジェンダーフリー社会」 スマートフォン・タブレットPCを用いながら、ジェンダーフリー社会についてディベートする。
到達目標・基準	◎C：近現代の歴史的諸問題に対し、討論を通して自分の考えをまとめることができる。 ○D：近現代の歴史的的事実関係や諸問題について、5つ以上説明できる。
事前・事後学習	事前学習：次回の講義内容に関する予習及び討論の準備に取り組む（60分）。 ニュースなどで近現代の歴史的事実や諸問題を把握する（60分）。 事後学習：講義で学んだ内容や自分の考えをまとめておく（60分）。
指導方法	DVD等の視聴覚教材を適宜利用しながら解説中心に授業を進めるが、ディスカッションやディベート等も取り入れる。また、毎回授業終了時にリアクションペーパーを受講生に提出してもらい、リアクションペーパーに記された質問等に対するフィードバックを次の講義の冒頭で行う。希望があれば、戸板女子短期大学周辺のフィールドワークも実施する。
成績評価の方法・基準	C：討論での発言やリアクションペーパーを評価する。 D：定期試験での記述解答を評価する。  定期試験45%、討論30%、リアクションペーパー15%、授業態度・貢献度10%
テキスト	なし

参考書	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	新聞・テレビ、インターネット等で毎日のニュースをチェックしておくこと。日本近現代史や時事問題の基礎知識に自信が無い者の履修も大歓迎する。この授業を通して歴史の基礎的な知識・教養を身につけることを目指してもらいたい。そのためには、一人ひとりが授業に貢献するという態度でのぞむようにすること。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・ディベート
I C Tの活用	スマートフォン、タブレットPC

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
白川はるひ			
Subject Code : G13C15			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 女性に関するテーマを切り口に日本社会を読み解いていく。そこから立ち現れる現代社会の傾向や課題、それぞれの関連性や原因を理解し、今を生きる当事者である自分がどのように行動していくべきかについて思索する。 (授業目標) 参政権を持つひとりの社会構成員として、社会への問題意識と参画意識をもつ。 ◎C：授業で扱った課題を自分事として捉え、解決策の事例提示と自らとるべき行動について説明することができる。 ○D：現代の日本女性をとりまく諸課題の現状、原因を説明することができる。
授業計画	1 現代社会を眺める（グループワーク） ガイダンス（授業内容、授業方法、評価方法に関する説明、諸注意） 現代社会のテーマからひとつを取り出し、現代の特質を考える。 （ICTの活用：クリッカー） 2 「理想の女性像」を問う（グループワーク） 「理想の女性」から社会を考える。 3 人口減少社会と女性（グループワーク） 人口減少社会のなかでの女性の生き方を考える。 4 女性と仕事①（ディスカッション） 女性の雇用・就業の現状を理解する。 （ICTの活用：Web Classにて課題配布） 5 女性と仕事②（ディスカッション） 女性間格差から労働問題をとらえる。 6 女性と仕事③（ディスカッション） 仕事と育児の両立について考える。 7 女性と家族①（グループワーク） 家族機能の変容を理解する。 8 女性と家族②（ロールプレイ） 生殖医療をめぐる問題について考える。 9 女性と家族③（ディスカッション） 育児をめぐる問題を考える。 10 女性と家族④（ディスカッション） 女性の老後問題を捉える。 11 女性と教育（ディスカッション） 女性の教育機会について考える。 12 女性と政治（ディスカッション） 女性の政治参加の現状と意味を考える。 13 女性と地域（グループディスカッション） 地域社会の現状やその役割について考える 14 より良い社会を目指して1（グループディスカッション） 現代日本社会の課題の解決策について考える。 15 より良い社会を目指して2（発表と討論） 現代社会に関するそれぞれの考察と自らの今後のあり方について発表し討論する。 （ICTの活用：Web Classにて小テスト）
到達目標・基準	◎C：現代社会の課題を自分事として捉え、解決策を提示することができる。 ○D：現代社会の複数の課題に共通する原因をいくつかあげ、説明することができる。
事前・事後学習	事前学習：毎日のニュースチェック（30分） 事前に配布した課題文を読み、予習ワークシートへ取り組む（90分） 事後学習：事後学習用ワークシートに取り組む。Web Classでの小テストの週もある（60分）
指導方法	授業は主に、①前回授業の復習 ②ディスカッション ③講義 という構成となる。ディスカッションは毎回代表者を決めて行い、その代表者によるディスカッションを中心としながらクラス全体に対しても問いかけをしていくかたちで進める。ロールプレイングやプレゼンテーションなどの週もある。 講義の際は基本的にパワーポイントにて進め、適宜DVDなどの視聴覚資料、クリッカーも利用する。 フィードバックの方法： ・ディスカッションについては学生同士の相互フィードバックおよび教員からのコメントにて行う。 ・提出物については、クラス全体に対して教室にて、あるいは課題返却時に個々にコメントを記載するかたちで行う。 ・小テストはWebClass受験時に自動的に達成度、正解および解説が分かるようになっている。 ・必要に応じてルーブリックを活用しながらフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準	C：授業における発言内容、提出物の内容、定期試験の結果を評価する。 D：授業における発言内容、提出物の内容、小テスト・定期試験の結果を評価する。 定期試験 40%、 提出物 30%、 授業貢献度（発言内容、参加度）20%、 小テスト10%
テキスト	なし。適宜プリント教材を配布する。
参考書	松田健『テキスト現代社会学 第3版』ミネルヴァ書房, 2016 岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣ストゥディア, 2015 加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣ストゥディア, 2017 小杉礼子・宮本みち子 編著 『下層化する女性たち 労働と家庭からの排除と貧困』勁草書房, 2015 他
履修上の注意	時事問題が得意でないが理解を深めたいと考えている学生、ディスカッションは得意でないがその力を伸ばしたいと考えている学生の参加も歓迎する。理解を深めること、ディスカッションスキルを伸ばすこと、その両方を目標に履修して欲しい。 事前課題に充分取り組んでこそそのディスカッションとなるため、このことを心得て履修すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ
I C Tの活用	Web Class（課題の配布、小テスト）、クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
黒澤 佳子			
Subject Code : G13C16			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 近年はインターネットで買い物をする機会が増え、モノやサービスの購入スタイルも多様化してきた。また、貯蓄・投資や保険などの金融商品を選ぶ際には、自己責任が求められるようになってきている。将来生きていく上で知っておくべき経済の知識と、ライフデザインに必要なお金に関する知識について、事例や体験談、ニュースで話題になっている事柄などを取り上げてわかりやすく解説する。 (授業目標) ○C：経済の動きを理解して、心豊かな生活を送るための生活設計や生活していく上での自己防衛について考えられるようになる。 ◎D：社会の中で役立つ正しいお金の知識を身につけ、自らの経済行動が社会全体の中でどのような意味を持つのかを理解する。
授業計画	<p>1 お金と経済活動 景気や経済活動におけるモノ・サービスの動きとお金の役割や循環について学ぶ。必要なもの（ニーズ）と欲しいもの（ウォンツ）の違い、賢いお金の使い方を考える。</p> <p>2 外国の通貨と為替（グループワーク） 外国の通貨と為替（円高/円安）について、身近な事例をもとに学ぶ。</p> <p>3 輸出と輸入 貿易の経済的なメリットについて学び、円高/円安と輸出/輸入の関係を理解する。</p> <p>4 お金を貯める（増やす）(1) お金の貯め方・増やし方について、預金と貯蓄の種類、金利とは何かを学ぶ。</p> <p>5 お金を貯める（増やす）(2)（個人ワーク） 金融商品（預貯金、株、債券、投資信託など）の特性の違いについて学び、運用におけるリスクとリターンについて理解する。</p> <p>6 需要と供給、物価と金利 「欲しい」が値段を決めることを理解する。物価と金利の関係、経済成長について学び、「景気が悪い」というのはどういうことかを理解する。</p> <p>7 インフレとデフレ、雇用と失業 インフレ、デフレが起こる要因について理解し、デフレスパイラルを学ぶ。「仕事がない」とはどのような状態なのか、失業率と景気の関係について学ぶ。</p> <p>8 国の財政状況と国債、財政政策 国の支出はどのようになっているのか、予算はどのようにして組まれるか、政府はどのような場合に財政政策を行うのか、財政政策にはいくつかの手法があり、その方法を学ぶ。</p> <p>9 銀行の役割、金融政策 「お金がまわる」とはどのようなことか、銀行の役割や直接金融と間接金融の違いについて学ぶ。日銀が行う金融政策とはどのようなものかと、その効果を学ぶ。</p> <p>10 お金を借りる（ローン）（グループワーク） ローンの仕組みを知り、お金を借りるには信用が大切であることや利息の付き方、返済方法について学ぶ。奨学金もローンであることを理解する。</p> <p>11 お金を借りる（クレジットカード）（個人ワーク） 一括払、分割払、リボ払の違いを知り、クレジットカード利用のメリット・デメリットを理解する。</p> <p>12 お金のトラブル（グループワーク） 契約の成立と責任、消費者金融や多重債務について学ぶ。さまざまな悪徳商法や学生が狙われやすい金融犯罪について学び、トラブル時の対処法を知る。</p> <p>13 税金と社会保険 給与明細を使って、税金・社会保険の概要や意義、仕組みを学ぶ。使えるお金は年収ではなく、可処分所得（手取り給与）であることを認識する。</p> <p>14 万が一に備える（保険） これからの人生に起こり得る万が一に備えるためのヒト・モノに関する保険を知り、どのような時にどのような保険が必要なのかを学ぶ。</p> <p>15 相続と贈与 お金や資産を受け継いでいくためにどのような制度があるのか、どう利用すればよいのかを知る。</p>
到達目標・基準	○C：新聞やニュースに関心を持ち、起こった出来事から自分の将来に役立つ学びを得ることができる。 ◎D：買い物や旅行、アルバイトなどの日常生活において、どのような経済活動が関連しているか説明できる。
事前・事後学習	事前学習：経済に関するニュースを見る。わからないワードは調べておく。（90分） 事後学習：授業の内容を踏まえ、事前学習で疑問に思った点に対し、自分なりの答えを考えてみる。（90分）
指導方法	授業は原則として、パワーポイントを使った講義と、個人ワーク形式で進める。 ワークシートを配布、授業で扱ったテーマからミニレポートを書き、授業後に提出する。 フィードバックの方法：提出物は必要に応じ、全体講評によりフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準	C：ミニレポート、定期試験等の内容によって評価する。 D：授業貢献度、ミニテスト等によって評価する。 授業への貢献度、ミニレポート、ミニテスト（50%）、定期試験（50%）と総合的に評価する。
テキスト	無し。適宜プリントを配布する。
参考書	『10代から学ぶパーソナルファイナンス』日本FP協会 『学生生活マネー&キャリアお役立ちハンドブック』日本FP協会 『若手社会人のマネー&ライフプラン お役立ちハンドブック』日本FP協会
履修上の注意	毎日ニュースを見る習慣をつけ、授業の中で疑問に思ったことを質問できるようにする。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、個人ワーク
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
井上近子			
Subject Code : G13C17			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 近年、小売業を取り巻く環境は厳しい状況にあり、小売業者による生活者ニーズに合った店づくり、商品の品揃えなど満足のいく対応が求められている。本講義は、流通における小売業の基本的役割を理解し、流通経路の重要性や店舗形態別小売業の特徴を解明していく。さらに、中小小売業の現状と役割、商業集積の変遷や課題についても取り上げる。2月に実施される「リテールマーケティング（販売士）検定3級」受験に対応し、授業の中で傾向と対策の時間を設けている。 (授業目標) 流通業界の第一線で活躍できる人材として「リテールマーケティング（販売士）検定3級」程度の知識を身につける。 ◎D：製造業、卸売業、小売業の基本的役割および流通のしくみを理解し、店舗形態別小売業の現状と課題について考察する。
授業計画	1 流通とは何か 小売業の定義、流通構造について 2 小売業の歴史の変遷 小売業を取り巻く社会環境の変化、新しい業態の台頭について 3 日本における小売業の特徴 零細性、過多性、多段階性について 4 小売業の機能と役割 小売業が消費者に提供している便益について 5 卸売業の機能と役割 需要結合、情報伝達、金融、リスク分散、物流、リテールサポートについて 6 製造業の流通経路政策 開放的流通チャンネル政策、選択的流通チャンネル政策、排他的流通チャンネル政策について 7 販売形態の種類と特徴 業種と業態の違い、有店舗販売と無店舗販売について 8 衣料品店の販売形態 百貨店の売上高推移と低迷要因、専門店の強みと弱みについて 9 食料品店の販売形態 総合品ぞろえスーパー、スーパーマーケットの店舗形態について 10 医療品、化粧品の販売形態 ドラッグストア、コンビニエンスストアの品ぞろえ特性について 11 欧米で生まれた小売形態 アウトレットストア、スーパーセンター、ホールセールクラブの特徴について 12 チェーンストアの種類と特徴 経営上のメリットとデメリット、レギュラーチェーン、フランチャイズチェーン、ボランタリーチェーンの違いについて 13 フランチャイズシステム概念 フランチャイザー（本部）とフランチャイジー（加盟店）の役割について 14 ショッピングセンターの動向 商圈による4つの分類、新業態の展開について 15 商店街の課題 活性化の条件、大型店と共存共栄について
到達目標・基準	◎D：小売業に関する流通チャンネルや業種・業態の特徴について説明できる。
事前・事後学習	事前学習：新聞記事や経済誌、テレビ等で新規出店やリニューアル、新業態に関するニュースを確認する（60分程度）。分からない専門用語を調べてまとめておく（60分程度）。 事後学習：興味のある記事・ニュースを1つ取り上げて、要約する（60分程度）。
指導方法	教科書、プリント、パワーポイント、DVDを基本とした講義形式で行う。板書が多くなるため、素早く書き取ることが心がかけることが大切である。 フィードバックの方法：①小テスト実施、②小テスト実施後における質疑応答
成績評価の方法・基準	D：定期試験、理解力の確認および検定試験対策のため実施する授業内小テスト、受講態度および授業への貢献度を評価する。 定期試験60%、授業内で実施する小テスト20%、受講態度・貢献度20%
テキスト	「販売士養成講習会3級テキストⅠ」日本商工会議所・全国商工会連合会編
参考書	「流通論」著者：村松幸廣・井上崇道・村松潤一 出版社：同文館 「流通の基本知識」著者：宝子山嘉一・松原寿一 出版社：評言社

履修上の注意	服飾芸術科の学生で「リテールマーケティング（販売士）検定3級」の資格取得を目指す場合は、本科目と「商品企画」「販売と経営」の3科目すべてを同学期に履修し、以下の条件を満たすことで、検定試験5科目のうち1科目が受験免除される。①第1回の授業に出席すること（本学で受験免除希望者名簿を作成するため）。②11月末に学内で実施する予備試験までの出席率が80%以上であること。③予備試験は70点以上であること。
アクティブ・ラーニング	特になし
I C Tの活用	特になし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
白川はるひ、中村公子			
Subject Code : G13C19			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>各々のボランティアの実践を中心とした授業である。さらに、それぞれの活動報告やボランティアに関連する講義を通して、社会やボランティアに関する理解を深める。</p> <p>(授業目標)</p> <p>ボランティアの意義や課題、現代社会の問題、地域社会の特性について理解を深め、主体的に社会に参画する「市民」としての自覚と実践力を育む。</p> <p>◎A：地域や活動先の課題を理解し、その課題解決を担うチームの一員としての自覚を持ち、主体的に、かつ周囲の人と協力しながら最後まで責任のある行動をとることができる。</p> <p>◎C：現代社会の抱える課題と自らの置かれている状況を的確に判断し、ボランティアとして、また学生として相応の行動をとることができる。</p>		
授業計画	1	オリエンテーション 授業ガイダンス ボランティア先施設についての説明 ボランティアとは (白川)	
	2	ボランティア実習① (実習) 各自の活動先での実習	
	3	ボランティア実習② (実習) 各自の活動先での実習	
	4	ボランティア実習③ (実習) 各自の活動先での実習	
	5	ボランティア実習④ (実習) 各自の活動先での実習	
	6	ボランティア実習⑤ (実習) 各自の活動先での実習	
	7	報告会① (プレゼンテーション) 各自の実習に関する報告を行う (中村)	
	8	共生社会について考える (ゲスト講師) 共生社会とは何か 共生社会実現のための課題と取り組み	
	9	ボランティア実習⑥ (実習) 各自の活動先での実習	
	10	ボランティア実習⑦ (実習) 各自の活動先での実習	
	11	共生を目指す (ゲスト講師) (グループワーク) 障害を持つ方によるワークショップ	
	12	ボランティア実習⑧ (実習) 各自の活動先での実習	
	13	ボランティア実習⑨ (実習) 各自の活動先での実習	
	14	ボランティア実習⑩ (実習) 各自の活動先での実習	
	15	報告会② (プレゼンテーション) 各自の実習に関する報告を行う (中村)	
到達目標・基準	◎A：必要に応じた報告・連絡・相談をしながら、周囲の人とともに明るく活動をすることができる。 ◎C：自らの活動のあり方について、多角的な視野からふりかえることができる。		
事前・事後学習	事前学習：活動予定表作成 (30分程度) ※不定期 活動報告準備 (90分程度) ※不定期 事後学習：活動報告書作成 (30分～60分程度) レポート課題 (60分程度) ※不定期		
指導方法	港区育児支援施設、地域交流施設、障害者施設など、指定施設での実習が中心となる。また、イベントの手伝いなども活動先のひとつとして選ばれる場合もある。さらに、教室での授業もあり、その際はパワーポイントやプリントを使用しての講義、報告会等を行う。最終的にポートフォリオを完成させ提出する。		

成績評価の方法・基準	<p>A：活動先での貢献度および、報告・相談・連絡が必要に応じて行われたかを評価する。 D：報告書、プレゼンテーション、およびポートフォリオの内容を評価する。</p> <p>ポートフォリオ（報告書、レポート課題、プレゼンテーション資料、活動先からの評価表など）70% プレゼンテーション 20% 授業参加度（発言、行動など） 10%</p> <p>※実習を中心とする授業のため、定期試験は実施しない。 ※実習に関しては、実習先からのフィードバックおよび巡回（あるいは引率）教員からのフィードバックを行う。</p>
テキスト	無し。適宜プリント教材を配布する。
参考書	『テキスト市民活動論～ボランティア・NPOの実践から学ぶ』（2011）早瀬昇他、社会福祉法人大阪ボランティア協会など
履修上の注意	<p>ボランティア活動は、実社会での実践を通して多くのことを学びとることができる活動です。積極的な履修を期待しますが、港区育児支援施設など協力先施設での実習が中心となりますので、責任をもって実習を行う覚悟が求められます。</p> <p>ボランティアの時期は夏休みから可としているため、そのためのオリエンテーションが夏休み前にあります。授業開催は変則的などところがあり、活動先も各人さまざまになるため、報告・連絡・相談を欠かさない自覚が大変重要になります。</p>
アクティブ・ラーニング	実習、プレゼンテーション、グループワーク
I C Tの活用	Web Class（資料のアップ） 発表時（PC利用）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
Subject Code : G13C21			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 宇宙や地球レベルの話から個々の生活レベルの話まで範囲は広がるが、一つひとつは物質と生命との相互作用で繋がっていることを理解する。また、地球の自然が作られた歴史や科学的な歴史を辿り、人間活動との関わりを理解を深める。更に、森林の役割や、化学物質の生物への影響を捉えて地球環境の姿を理解し、環境問題を考える。 (授業目標) ◎C：環境の知識を活用し、環境問題の本質を理解することができる。 ○D：環境問題を地理や歴史と体系立て理解することができる。
授業計画	<p>1 生きている地球 地球上の季節の変化や、生命の営みについて理解する。</p> <p>2 アリストテレスの四元素と暦 星座や、二十四節気について理解する。</p> <p>3 星と太陽系の惑星 星や太陽系の惑星の知識を修得し、かけがえのない地球を考える。(グループ発表)</p> <p>4 地球の歴史 地球46億年の歴史を辿る。</p> <p>5 酸素とオゾン 生活環境で絶対に必要な酸素について考え、オゾンの知識を習得する。(グループ発表)</p> <p>6 水 身近な水について考える。</p> <p>7 離島の生活 大小さまざまな島でできている日本の島の暮らしについて学ぶ。(グループ発表)</p> <p>8 世界・日本の環境の歴史 古代文明から産業革命を経て現代までの歴史を、環境の視点から考える。</p> <p>9 日本の世界遺産 日本の誇るべき世界遺産について学ぶ。(グループ発表)</p> <p>10 地球温暖化について 化石燃料とエネルギー問題、地球温暖化による生態系への影響を理解する。</p> <p>11 芝公園の環境について調べる(フィールドワーク) 芝公園に出かけ、環境について考える。</p> <p>12 世界や日本の河川と身近な河川 世界や日本の河川について学び、川の水質について調べる。</p> <p>13 人間の歴史と公益(ゲスト講師) ゲスト講師が、人間の歴史と公益の観点から講義を行う。</p> <p>14 生物の寿命とメス・オス ヒトや他の生命の寿命を考え、メスとオスの役割を認識する。</p> <p>15 地球レベルと個々の生活(グループ発表) Think globally, act locally.</p>
到達目標・基準	◎C：身のまわりの環境を理解することができる。 ○D：身近な環境問題について考えることができる。
事前・事後学習	事前学習；プリントを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習；配布されたプリントを復習し、演習問題を再度解く(90分程度)
指導方法	配布するプリントや、パワーポイント等を使用して講義を進める。 また、科学等のテーマでグループ発表を行う。 フィードバックの仕方：プリント返却時に指導する。
成績評価の方法・基準	C：環境の問題について定期試験で評価する D：環境について定期試験で評価する 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	毎回プリントを配布する
参考書	『地球環境化学入門・改訂版』J.E. アンドリュース著、渡辺正翻訳(丸善出版)
履修上の注意	記入式のプリントを配布する。 講義を欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行う。

アクティブ・ラーニング	グループ発表がある。また、フィールドワークがある。
I C Tの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
Subject Code : G13C22			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 物質の構成や結合を理解し、化学の基本となる物質の考え方を身につける。化学反応式を理解し、中和反応や酸化還元反応を学ぶ。また、有機化学は炭素を中心とした独特の世界が広がっており、生命現象の根本となる有機化学をわかりやすく説明していく。高校で理論化学や有機化学を履修しなかった場合にも対応できるように行っていく。演習も重要視する。 (授業目標) ◎C：化学の知識を使って、化学的思考力を身につける。 ○D：モルを理解し、有機化学を系統立てて理解する。
授業計画	<p>1 周期表 化学に親しむために、周期表に関することを学ぶ。(個人の発表)</p> <p>2 物質と原子：物質の成分、構成要素 純物質と混合物、原子や分子、原子内の電子配置を学ぶ。</p> <p>3 価電子、原子量・分子量 最外殻電子や、原子量について学ぶ。</p> <p>4 化学結合 イオン結合や共有結合について学ぶ。</p> <p>5 物質の三態 物質の状態変化について学ぶ。</p> <p>6 物質量 モルについて学び、演習を通し理解を深める。</p> <p>7 化学反応と化学反応式 化学反応式について理解する。</p> <p>8 酸・塩基、中和 酸と塩基の強弱や、中和反応を理解する。</p> <p>9 酸化還元反応 酸化数や還元数について理解し、酸化・還元剤の知識を修得する。</p> <p>10 炭素の結合について 有機化学の根本となる炭素の性質について理解する。</p> <p>11 官能基と異性体 主要な官能基を覚え、異性体を理解し演習を行う。</p> <p>12 脂肪族炭化水素、アルコール 二重結合や三重結合の知識を修得し、アルコール類の種類や性質を学ぶ。</p> <p>13 糖質の化学 三大栄養素の1つである糖質を学ぶ。</p> <p>14 脂質の化学 三大栄養素の1つである脂質を学ぶ。</p> <p>15 タンパク質の化学 三大栄養素の1つであるタンパク質を学ぶ。</p>
到達目標・基準	◎C：化学の知識を使って計算問題を解くことができる。 ○D：化学の単位を理解し、炭素の性質等を考えることができる。
事前・事後学習	事前学習：テキストや参考書を読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)
指導方法	テキストに従って授業を進める。また、随時プリントを配布し、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。
成績評価の方法・基準	C：化学の知識や計算問題について定期試験で評価する。 D：モルや有機化学等を定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』数研出版編集部編(数研出版)
参考書	
履修上の注意	授業は欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。
アクティブ・ラーニング	個人の発表がある。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	総合：選択
担当教員			
苗村晶彦			
Subject Code : G13C23			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要) 細胞・生殖・遺伝現象を理解し、生物の成り立ちと種族維持の仕組みについて理解し、生命の連続性の見方や考え方を身につける。ヒトの体を知ることが生物学の本質であるが、その不思議なメカニズムや働きを知り、生命の大切さや尊厳について学ぶ。また、生物の進化や今地球上でどのような問題が起こっているのかについても視点を当てる。</p> <p>(授業目標) ◎C：生物の知識を使って、生命の本質や地球環境問題への思考力を身につける。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて理解する。</p>		
授業計画	1	植物と動物 さまざまな生き物の特性を学ぶ。(発表)	
	2	ゴリラの生活と生態 ヒトとほとんどDNAに近いゴリラについて考える。	
	3	生命の起源と進化と古細菌 生命の起源や、進化の過程を理解する。 また、生命の故郷・海について考える。(グループ発表)	
	4	細胞 ミクロの世界の現象を考える。	
	5	生殖と遺伝 さまざまな生殖の特色を学ぶ。メンデルの法則や、遺伝について学ぶ。(グループ発表)	
	6	芝公園における植物観察(フィールドワーク) 校外実習(植物観察を行いレポートを提出する)	
	7	ヒトの体 ヒトの体の絶妙な仕組みについて学ぶ。(グループ発表)	
	8	五感(目・耳・舌・鼻・皮膚) 五感の働きについて理解する。	
	9	酸素と呼吸(有機物の分解) 嫌気呼吸と好気呼吸の仕組みについて理解する。(グループ発表)	
	10	光合成(有機物の生成) 有機物の生成について理解する。	
	11	血液とホルモン 体内環境と体液について学ぶ。(グループ発表)	
	12	脳(神経の働き) 刺激と受容や、神経系について学ぶ。	
	13	DNA DNAの構造や、DNAの複製を理解する。(グループ発表)	
	14	地球環境問題1 ヒトの寿命や、森林衰退について考える。	
	15	地球環境問題2 地球温暖化について考える。(グループ発表)	
到達目標・基準	◎C：生物の知識を使って、生命の本質や地球環境問題について考え実践することができる。 ○D：生物学の知識を理解し、生物学を系統立てて考えることができる。		
事前・事後学習	事前学習：テキストを読み関連のある箇所を読む(90分程度) 事後学習：テキストや配布されたプリントを復習する(90分程度)		
指導方法	テキストやプリントに従って授業を進める。また、パワーポイント等を使用して講義を進める。 フィードバックの仕方：数回小レポートにて理解度を確認し、返却時に指導する。		
成績評価の方法・基準	C：生物の知識を使って、生命の本質の理解について定期試験で評価する。 D：生物学を系統立てて考えられるかを定期試験で評価する。 定期試験80%、受講態度20%		
テキスト	『視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』数研出版編集部編(数研出版)		
参考書			
履修上の注意	授業は欠席する場合、理由を明記して欠席届の提出を行うようにする。		
アクティブ・ラー	個人の発表や、グループ発表がある。また、フィールドワークがある。		

ニング	
I C Tの活用	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
西岡健自、別宮玲、村上大、布施梓、釣井義朗			
Subject Code : G14A24			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 現代社会においては、あらゆる職業においてPCとネットの活用が求められていると言っても過言ではない。本授業ではメール、インターネット、キーボードタイピング、ワープロ、表計算といった一般的に社会人に必要とされている技術を初歩から学ぶ。 文書作成・表計算・プレゼンテーションソフトの基本操作だけではなく、昨今多発しているコンピューター犯罪や炎上事件などのインターネットに関するトラブルから身を守る為の術を身につけることも本授業の目的である。 (授業目標) ○D：社会におけるコンピューターやネットワークに関する諸問題を理解し、その回避方法・解決方法を説明できる。 ◎E：PCを使用して自分の考えをまとめ、適切なアプリケーションを使用しドキュメント化することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業概要と他の科目との関係について</li> <li>・情報資格解説</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「①ほんとにあったセキュリティの話」</li> </ul> <p>2 本学の情報システム：学生用情報システムの設定確認と基本操作を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生用PC、Gメール、アクティブポータル、WebClass等の設定と操作</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「②あなたの書き込みは世界中でみられている」</li> </ul> <p>3 PC基本操作：OS操作を中心にPCの基本操作と用語を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アプリの起動とファイル(メモ帳、ペイント、Word、Excel、PowerPoint)の新規作成</li> <li>・エクスプローラーによるファイル操作とフォルダ管理</li> <li>・キーボードタイピング</li> <li>・PC、タブレット、スマホなど情報機器の用途や用語の学習</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「③スマートフォン乗っ取り(デモ)」</li> </ul> <p>4 文書作成ソフトの学習(1)：Wordの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規作成</li> <li>・配置の設定</li> <li>・フォントの設定</li> <li>・段落番号と箇条書き</li> <li>・文字数と行のカウント</li> <li>・保存</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「④その警告メッセージ、信じて大丈夫」</li> </ul> <p>5 文書作成ソフトの学習(2)：Wordの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像の挿入</li> <li>・SmartArtグラフィック</li> <li>・表の作成</li> <li>・他のアプリのオブジェクトを貼り付ける</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑤乗っ取りの危険性があなたのスマホに」</li> </ul> <p>6 文書作成ソフトの学習(3)：Wordの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図表番号の設定</li> <li>・ページ罫線</li> <li>・ワードアート</li> <li>・段組み</li> <li>・タブとリーダー</li> <li>・PDFファイルとして保存</li> <li>・Word演習問題</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑥ネットの危ない罠、出会い系サイト」</li> </ul> <p>7 表計算ソフトの学習(1)：Excelの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規作成</li> <li>・データの入力</li> <li>・保存</li> <li>・罫線の設定</li> <li>・数式の入力</li> <li>・関数の入力</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑦ネットの危ない罠、ネットショッピング」</li> </ul> <p>8 表計算ソフトの学習(2)：Excelの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表示形式の設定</li> <li>・列幅の変更</li> <li>・書式のコピー</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑧ネットの危ない罠、SNS」</li> </ul> <p>9 表計算ソフトの学習(3)：Excelの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出とフィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの作成</li> <li>・グラフの変更</li> <li>・Excel演習問題</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑨大丈夫、あなたのスマートフォン」</li> </ul> <p>10 プレゼンテーションソフトの学習(1)：PowerPointの基本操作を学ぶ(WebClass:課題提出と</p>

	<p>フィードバック)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規作成</li> <li>・テーマの適用</li> <li>・プレースホルダー</li> <li>・箇条書きテキスト</li> <li>・スライドの実行</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑩ネットの危ない罠、ワンクリック詐欺」</li> </ul> <p>11 プレゼンテーションソフトの学習（2）：PowerPointの基本操作を学ぶ（WebClass:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オブジェクトの挿入</li> <li>・スライドの構成の変更</li> <li>・画面切り替え効果の設定</li> <li>・アニメーションの設定</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑪あなたのスマートフォン、ウィルスが狙っている」</li> </ul> <p>12 プレゼンテーションソフトの学習（3）：PowerPointの基本操作を学ぶ（WebClass:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの流れ</li> <li>・PowerPoint演習問題</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑫スマートフォンのワンクリック請求」</li> </ul> <p>13 総合演習（1）（WebClass:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決め各自プレゼンテーションスライドを作成</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑬デモで知る標的型攻撃による乗っ取り」</li> </ul> <p>14 総合演習（2）（WebClass:課題提出とフィードバック）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決め各自プレゼンテーションスライドを作成</li> <li>・情報セキュリティ動画視聴「⑭陽だまり家族とパスワード」</li> </ul> <p>15 総合演習（3）（プレゼンテーション：受講者全員がプレゼンテーションを行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自がテーマに沿って作成したスライドを用いたプレゼンテーション</li> </ul>
到達目標・基準	<p>○D：コンピューター犯罪や炎上事件などのネットに関するトラブルの例を説明できる。</p> <p>◎E：Word、Excel、PowerPointを用いた基本的な文書や表計算の作成、プレゼンテーションの作成や操作ができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：シラバスを参考に、次回使用するアプリケーションについて各自学習する。(60分)</p> <p>日々のニュース、特にネットワークやセキュリティに関する情報をチェックする。(30分)</p> <p>事後学習：課題演習の多い授業である。苦手なアプリケーションの操作は次週までに克服するよう各自学習する。(60分)</p>
指導方法	<p>パソコンを操作する演習が中心だが、必要に応じて講義を中心とした回も織り交ぜて進める。</p> <p>文書作成はMS-Word、表計算はMS-Excel、プレゼンテーションはMS-PowerPointによる制作作業を行う。</p> <p>課題の提出はWebClassを利用する。課題の採点結果や再提出の指示などのフィードバックもWebClassで行う。</p> <p>また、WebClassの利用方法についても本授業内で学習する。</p> <p>毎週の授業内容に加え、セキュリティに関する講義とタイピング練習も随時行われる。</p>
成績評価の方法・基準	<p>D：授業内での質問と回答、小テストで評価する。</p> <p>E：Word、Excel、PowerPointによる制作課題を評価する。</p> <p>受講態度30%、課題提出40%、最終課題30%</p>
テキスト	情報リテラシー入門編（改訂版）（Windows10、Office2016）（FOM出版）
参考書	
履修上の注意	2週にわたって取り組む演習問題が複数存在する。1回でも欠席すると、その後ついていくのが大変なため、休んだ回の課題は教員に確認し、次回出席までに終わらせておくこと。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C Tの活用	WebClass

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
井上香緒里、藤田正			
Subject Code : G14C25			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) プレゼンテーションソフトは事務職のみならず様々な職業で使用する機会がある。 本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office PowerPoint 2016」の出題範囲に 着いてプレゼンテーションソフトPowerPointの機能を勉強する。 また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：スライドの作成・操作、グラフィックやマルチメディアの挿入、グラフや表の作成、アニメーション設定 について、MOS PowerPoint 合格相当のPCの操作ができる。		
授業計画	1	ガイダンス/プレゼンテーションの作成と管理（1） ・学習の進め方 MOS PowerPoint 2016の出題範囲の説明 1-1-1 新しいプレゼンテーションを作成する 1-1-2 テンプレートをもとにしてプレゼンテーションを作成する 1-1-3 Wordのアウトラインをインポートする 1-2-1 特定のスライドのレイアウトを挿入する 1-2-2 スライドに別のレイアウトを適用する	
	2	プレゼンテーションの作成と管理（2） 1-2-3 既存のスライドを複製する 1-2-4 スライドを表示する、非表示にする 1-2-5 スライドを削除する 1-2-6 個々のスライドの背景を変更する 1-2-7 スライドのヘッダー、フッター、ページ番号を挿入する 1-3-1 スライドの順番を移動する 1-3-2 セクションを作成する 1-3-3 セクション名を変更する 1-3-4 セクションの順番を変更する	
	3	プレゼンテーションの作成と管理（3） 1-4-1 スライドのサイズを変更する 1-4-2 プレゼンテーションの表示を変更する 1-4-3 ファイルのプロパティを設定する 1-5-1 プレゼンテーションの全体または一部を印刷する 1-5-2 ノートや配布資料を印刷する 1-5-3 カラー、グレースケール、白黒で印刷する	
	4	プレゼンテーションの作成と管理（4） 1-6-1 目的別スライドショーを作成する 1-6-2 スライドショーのリハーサル機能を使用する 1-6-3 スライドショーのオプションを設定する 1-6-4 発表者ツールを使用してスライドショーを発表する 1-7-1 スライドのレイアウトを変更する 1-7-2 スライドマスターのテーマや背景を変更する 1-7-3 スライドのレイアウトを作成する 1-7-4 スライドマスターのコンテンツを変更する	
	5	プレゼンテーションの作成と管理（5）/テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（1） 1-7-5 配布資料マスターを変更する 1-7-6 ノートマスターを変更する 2-1-1 スライドにテキストを挿入する 2-1-2 テキストに書式やスタイルを適用する 2-1-3 箇条書きや段落番号を作成する 2-1-4 テキストに段組みを設定する 2-1-5 テキストにワードアートのスタイルを適用する 2-1-6 ハイパーリンクを挿入する	
	6	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（2） 2-2-1 図を挿入する 2-2-2 図のサイズを変更する、図をトリミングする 2-2-3 図のスタイルや効果を適用する 2-3-1 図形を挿入する、置き換える 2-3-2 テキストボックスを挿入する 2-3-3 図形やテキストボックスのサイズを変更する 2-3-4 図形やテキストボックスにスタイルを適用する 2-3-5 図形やテキストボックスの書式を設定する	
	7	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定（3）/表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（1） 2-4-1 オブジェクトを並べ替える 2-4-2 オブジェクトを配置する 2-4-3 オブジェクトをグループ化する 2-4-4 配置用のツールを表示する 3-1-1 表を作成する 3-1-2 表に行や列を挿入する、削除する	

	<p>3-1-3 表のスタイルを適用する 3-1-4 表をインポートする 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（2） 3-2-1 グラフを作成する 3-2-2 グラフの種類を変更する 3-2-3 グラフのスタイルを変更する 3-2-4 グラフに凡例を追加する 3-2-5 グラフをインポートする 3-3-1 SmartArtを作成する 3-3-2 箇条書きをSmartArtに変換する 3-3-3 SmartArtに図形を追加する 3-3-4 SmartArtの中で図形を並べ替える 3-3-5 SmartArtの色を変更する</p> <p>9 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入（3） 3-4-1 サウンドやビデオを挿入する 3-4-2 メディアのウィンドウサイズを調整する 3-4-3 メディアのタイミングのオプションを設定する 3-4-4 メディアの再生オプションを設定する 3-4-5 ビデオの開始時間と終了時間を設定する</p> <p>10 画面切り替えやアニメーションの適用 4-1-1 画面切り替えを挿入する 4-1-2 画面切り替えの効果のオプションを設定する 4-2-1 文字やオブジェクトにアニメーションを適用する 4-2-2 アニメーションの効果のオプションを設定する 4-2-3 アニメーションの軌跡効果を設定する 4-3-1 画面切り替えの効果のタイミングを設定する 4-3-2 アニメーションの開始と終了のオプションを設定する 4-3-3 同じスライドにあるアニメーションの順序を並べ替える</p> <p>11 複数のプレゼンテーションの管理（1） 5-1-1 ほかのプレゼンテーションからスライドを挿入する 5-1-2 2つのプレゼンテーションを比較する 5-1-3 コメントを挿入する 5-1-4 コメントをレビューする 5-2-1 プレゼンテーションの校正を行う</p> <p>12 複数のプレゼンテーションの管理（2） 5-2-2 プレゼンテーションを検査する 5-2-3 プレゼンテーションを保護する 5-2-4 プレゼンテーションの内容を保持する 5-2-5 プレゼンテーションを別の形式にエクスポートする</p> <p>13 試験対策講座（1）（デジタル教材による模擬試験） ・ 模擬試験プログラムの使い方 ・ MOS 2016の試験形式や攻略ポイントの説明</p> <p>14 試験対策講座（2）（デジタル教材による模擬試験） ・ 第1回模擬試験の実施とポイント解説</p> <p>15 試験対策講座（3）（デジタル教材による模擬試験） ・ 第2回模擬試験の実施とポイント解説</p>
到達目標・基準	◎ E：PowerPointを使用して、基本的なスライド作成・操作、グラフィックの挿入、表の作成をし、スライドショーを実行できる。
事前・事後学習	事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。(90分) 事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。自己解決が困難な場合、メディアセンターアネックスを活用すると良い。(60分)
指導方法	パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではデジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。
成績評価の方法・基準	◎ E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。 (MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる) 受講態度30%、課題及び最終課題70%の割合で成績評価を行う。
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft PowerPoint 2016 対策テキスト& 問題集 (FOM出版)
参考書	
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提条件となる。
アクティブ・ラーニング	
ICTの活用	デジタル教材による模擬試験

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
布施梓、江原和彦			
Subject Code：1年生G14C26		Subject Code：2年生G14C26	

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 表計算ソフトを使用する職業は非常に多く、その操作スキルは社会で求められるものである。本授業ではMicrosoft Office Specialist (MOS) 検定の「Microsoft Office Excel 2016」の出題範囲にそってExcelの機能を学習する。 また、試験に合格するコツや、テクニックなどについても学習する。 (授業目標) ◎E：ワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入・編集、データ分析について、MOS Excel 合格相当のPCの操作ができる。		
授業計画	1	ガイダンス／ワークシートやブックの作成と管理（1） ・MOS Excel 2016の出題範囲の説明 1-1-1 ブックを作成する 1-1-2 区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする 1-1-3 ワークシート名を変更する 1-1-4 既存のブックにワークシートを追加する 1-1-5 ワークシートをコピーする、移動する	
	2	ワークシートやブックの作成と管理（2） 1-2-1 ブック内のデータを検索する 1-2-2 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する 1-2-3 ハイパーリンクを挿入する、削除する 1-3-1 ワークシートの見出しの色を変更する 1-3-2 ページ設定を変更する 1-3-3 ブックのテーマを変更する 1-3-4 ヘッダーやフッターを挿入する 1-3-5 列や行を挿入する、削除する 1-3-6 列の幅や行の高さを調整する	
	3	ワークシートやブックの作成と管理（3） 1-4-1 ブックの表示を変更する 1-4-2 ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 1-4-3 数式を表示する 1-4-4 列や行を表示する、非表示にする 1-4-5 ワークシートを表示する、非表示にする 1-4-6 ウィンドウの表示を変更する	
	4	ワークシートやブックの作成と管理（4） 1-4-7 ドキュメントプロパティを変更する 1-4-8 クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 1-5-1 ブック全体またはブックの一部を印刷する 1-5-2 印刷範囲を設定する 1-5-3 拡大縮小印刷を設定する 1-5-4 複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する 1-5-5 別のファイル形式でブックを保存する 1-5-6 ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する	
	5	ワークシートやブックの作成と管理（5）／セルやセル範囲のデータの管理（1） 1-5-7 ブック内のアクセシビリティの問題を検査する 1-5-8 ブック内の互換性の問題を検査する 2-1-1 オートフィル機能を使ってセルにデータを入力する 2-1-2 データを切り取る、コピーする、貼り付ける 2-1-3 形式を選択してデータを貼り付ける 2-1-4 セルを挿入する、削除する 2-1-5 データを置換する	
	6	セルやセル範囲のデータの管理（2） 2-2-1 セルの書式を適用する 2-2-2 セルの配置やインデントを変更する 2-2-3 セル内の文字列を折り返して表示する 2-2-4 セルを結合する 2-2-5 数値の書式を適用する 2-2-6 セルのスタイルを適用する 2-2-7 書式のコピー/貼り付け機能を使用してセルに書式を設定する	
	7	セルやセル範囲のデータの管理（3）／テーブルの作成（1） 2-3-1 スパークラインを挿入する 2-3-2 データのアウトラインを作成する 2-3-3 小計を挿入する 2-3-4 条件付き書式を適用する 3-1-1 セル範囲からテーブルを作成する 3-1-2 テーブルに行や列を追加する、削除する 3-1-3 テーブルをセル範囲に変換する	

	8	<p>テーブルの作成（2）</p> <p>3-2-1 テーブルにスタイルを適用する</p> <p>3-2-2 テーブルスタイルのオプションを設定する</p> <p>3-2-3 テーブルに集計行を挿入する</p> <p>3-3-1 データを並べ替える</p> <p>3-3-2 複数の列でデータを並べ替える</p> <p>3-3-3 レコードを抽出する</p> <p>3-3-4 重複レコードを削除する</p>
	9	<p>数式や関数を使用した演算の実行（1）</p> <p>4-1-1 セル参照を追加する</p> <p>4-1-2 SUM関数を使用して計算を行う</p> <p>4-1-3 AVERAGE関数を使用して計算を行う</p> <p>4-1-4 MIN、MAX関数を使用して計算を行う</p> <p>4-1-5 COUNT関数を使用して計算を行う</p> <p>4-2-1 IF関数を使用して論理演算を実行する</p>
	10	<p>数式や関数を使用した演算の実行（2）</p> <p>4-2-2 SUMIF関数を使用して論理演算を実行する</p> <p>4-2-3 AVERAGEIF関数を使用して論理演算を実行する</p> <p>4-2-4 COUNTIF関数を使用して統計的演算を実行する</p> <p>4-3-1 RIGHT、LEFT、MID関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-2 UPPER、LOWER、PROPER関数を使用して文字の書式を設定する</p> <p>4-3-3 CONCATENATE関数を使用して文字の書式を設定する</p>
	11	<p>グラフやオブジェクトの作成（1）</p> <p>5-1-1 新しいグラフを作成する</p> <p>5-1-2 データ範囲の行と列を切り替える</p> <p>5-1-3 データ範囲（系列）を追加する</p> <p>5-1-4 クイック分析を使用してデータを分析する</p> <p>5-2-1 グラフのサイズを変更する</p> <p>5-2-2 グラフのレイアウトやスタイルを適用する</p> <p>5-2-3 グラフの要素を追加する、変更する</p> <p>5-2-4 グラフをグラフシートに移動する</p>
	12	<p>グラフやオブジェクトの作成（2）</p> <p>5-3-1 テキストボックスや図形を挿入する</p> <p>5-3-2 画像を挿入する</p> <p>5-3-3 オブジェクトのプロパティを変更する</p> <p>5-3-4 アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する</p>
	13	<p>試験対策講座（1）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験プログラムの使い方</li> <li>・MOS 2016の試験形式や攻略ポイントの説明</li> </ul>
	14	<p>試験対策講座（2）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回模擬試験の実施とポイント解説</li> </ul>
	15	<p>試験対策講座（3）（ICT：デジタル教材による模擬試験）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回模擬試験の実施とポイント解説</li> </ul>
到達目標・基準	◎E：Excelを使用して、基本的なワークシートの操作、数式や関数の操作、グラフや図の挿入ができる。	
事前・事後学習	<p>事前学習：試験対策講座で複数回にわたって最終課題を行う。最終課題の内容はMOSの模擬試験問題に準ずるものとなっている。出題範囲は事前に明確になっているため、試験対策講座の授業回を待たず、十分な事前学習による高得点の獲得を期待する。なお授業計画内の1-2-2などの表記はテキストの章番号である。事前学習の参考にすること。(90分)</p> <p>事後学習：授業内で正答できなかった問題は事後学習で各自補完する。自己解決が困難な場合、メディアセンターアネックスを活用すると良い。(60分)</p>	
指導方法	<p>パソコンを操作する実習が中心である。前半は講師と共に行う操作練習、後半は個別演習形式で進める。また授業終盤ではデジタル教材によるMOSの模擬試験を用いた実践演習を行う。</p> <p>フィードバックの方法：模擬試験は実施の都度授業内で採点し、アドバイスをを行う。</p>	
成績評価の方法・基準	<p>◎E：最終課題で評価を行う。またMOS合格者は評価を原則1段階アップさせる。（MOS合格者は本来A評価の者をS評価に、B評価の者はA評価にアップ。元々S評価の者はそのままS評価の成績となる）</p> <p>受講態度30%、課題及び最終課題70%の割合で成績評価を行う。</p>	
テキスト	よくわかるマスターMicrosoft Office Specialist Microsoft Excel 2016 対策テキスト& 問題集（FOM出版）	
参考書		
履修上の注意	「情報リテラシー」履修済みか、同等以上のコンピュータ操作技能があることが履修の前提となる。	
アクティブ・ラーニング		
ICTの活用	デジタル教材による模擬試験	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C27			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 運動を通して、日常生活に必要な基礎体力をつける習慣を身につけるために、ストレッチとエクササイズを継続して実施し、自身の体調の変化に気がつくようにする。 他者と協働することの意義や楽しさを体得できるよう、球技種目（ドッジボール、バレーボール、バドミントン、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を取得し、ゲームを行う。 (授業目標) ◎A：ゲーム実施の際、自身の役割を理解し、チームに貢献することで責任感を養うことができる。 ○E：球技種目（ドッジボール、バレーボール、バドミントン、卓球、ニュースポーツ）の基礎技術を修得することができる。
授業計画	1 ガイダンス（グループワーク：相互インタビューによる他己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、相互インタビューによる他己紹介 2 球技①（実習：ドッジボール） ストレッチ、ドッジボール 3 球技②基礎（実習：ドッジビー） ストレッチ、ドッジビー（基礎練習・ゲーム） 4 球技②応用（実習：ドッジビー） ストレッチ、ドッジビー（応用練習・ゲーム） 5 球技③（実習：ポッチャ） ストレッチ、ポッチャ 6 球技④（実習：ポートボール） ストレッチ、ポートボール 7 球技⑤基礎（実習：ソフトバレーボール） ストレッチ、ソフトバレーボール(基礎練習・ゲーム) 8 球技⑤応用（実習：バレーボール） ストレッチ、バレーボール(ゲーム) 9 球技⑥基礎（実習：バドミントン） ストレッチ、バドミントン(基礎練習) 10 球技⑥応用（実習：バドミントン） ストレッチ、バドミントン(ゲーム) 11 球技⑦（実習：ユニホック） ストレッチ、ユニホック 12 球技⑧基礎（実習：卓球） ストレッチ、卓球(基礎練習) 13 球技⑧応用（実習：卓球） ストレッチ、卓球(ゲーム) 14 球技⑨（実習：バウンドテニス） ストレッチ、バウンドテニス 15 球技⑩（実習：キンボール） ストレッチ、キンボール
到達目標・基準	◎A：チーム内においての自身の役割を見つけ参加することができる。 ○E：ルールにのっとり、楽しくスポーツすることができる。
事前・事後学習	事前学習：次週の授業までに日常生活の中でスポーツに関するニュースや書籍に目を通すようにする。（30分程度） 事後学習：スポーツする楽しさと意義を感じ、日常生活の中にスポーツすることを取り込んでいくようにする。（30分程度）
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむためには何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
成績評価の方法・基準	A：ゲーム中においてチームにおける貢献度と受講態度、また技能カードや感想用紙などの提出物に対する取り組みを評価する。 E：各種目における技能を評価する。  チームへの貢献度30%、受講態度30%、提出物10%、各種目における技能30%

テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「スタビライゼーション」小林敬和編著 ベースボールマガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実習
I C Tの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期・後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C28			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 準備運動としてストレッチを実施する中で、心身をほぐす。リズムダンスの基礎的なステップを修得後、リズムに合わせて踊れるよう練習を実施する。修得した曲目の中から自身の課題曲を決定し、グループでフォーメーションの創作を実施し、人前で発表できるようにする。 (授業目標) ◎A：修得した曲の中からグループ創作を実施し、チームをまとめる力を身につけることができる。 ◎E：準備運動としてストレッチを行い、リズムダンスの基礎的なステップを修得することで個人の身体表現を磨き、リズムに乗って楽しく踊ることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス（グループワーク：相互インタビューによる他己紹介） 目的、授業における留意点、評価方法の説明、相互インタビューによる他己紹介</p> <p>2 ストレッチ、ウォームアップ ストレッチ、リズムダンス（ウォームアップ）</p> <p>3 リズムダンス①（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ1）</p> <p>4 リズムダンス②（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ2） （ICT：WebClass）</p> <p>5 リズムダンス③前半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ1）</p> <p>6 リズムダンス③後半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ1仕上げ） （ICT：WebClass）</p> <p>7 リズムダンス④前半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ2）</p> <p>8 リズムダンス④後半（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズ2仕上げ） （ICT：WebClass）</p> <p>9 リズムダンス④踊り込み（実習：リズムダンス） ストレッチ、リズムダンス（各種ステップ・フレーズの踊り込み）</p> <p>10 グループ創作1（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作1） （ICT：iPad）</p> <p>11 グループ創作2（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作2） （ICT：iPad）</p> <p>12 グループ創作3（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作3） （ICT：iPad）</p> <p>13 グループ創作4（グループワーク：創作） ストレッチ、リズムダンス（創作4） （ICT：iPad）</p> <p>14 創作ダンス発表 グループ創作した作品発表 （ICT：iPad）</p> <p>15 創作ダンス鑑賞 グループ創作した作品のVTR鑑賞</p>
到達目標・基準	◎A：自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる。 ◎E：軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができる。
事前・事後学習	事前学習：自分自身の身体の変化に気がつけるようにチェックを行う。（30分程度） 事後学習：毎回導入として行うストレッチやマッサージの方法を覚え、日常生活でも実践していくようにする。（30分程度）
指導方法	①準備運動としてストレッチを行い、その日の体調を確認する。 ②ウォームアップを音楽に合わせて行い、リズムに合わせて動くたのしさを修得し、健康でしなやかな日常生活を送れるようにする。 ③リズムダンスを修得した後、グループ創作を行う。個人の身体表現を磨き、他者との身体コミュニケーションを行う意義について理解を深めさせる。 フィードバックの方法：iPadで動きや作品を撮影し、その動画を用いて改善していく。質問があった場合には、個別に対応する。

成績評価の方法・基準	A：グループ活動時の貢献度と受講態度、また提出物に対する取り組みを評価する。 E：個人技能を評価する。  グループへの貢献度30%、受講態度20%、提出物20%、個人技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。
参考書	「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社 「プロフェッショナルピラーティス」アラン・ハードマン著 池田美紀訳 ガイアブックス 「ダンス解剖学」ジャッキー・グリーン・ハース著 武田淳也監訳 ベースボール・マガジン社
履修上の注意	①受講資格：健康診断(心電図も含む)において問題がないと認められた者。 ②体育館シューズ・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等は外すこと。
アクティブ・ラーニング	グループワーク：相互インタビューによる他己紹介、実習、創作
I C T の活用	グループワークの際、iPadで動きや作品を撮影 WebClassで振付見本動画を提示

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C29			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 八王子キャンパスのグラウンドや体育館を使用して様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見しながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけ、参加することができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし 2 生涯スポーツ①(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(基礎練習) 3 生涯スポーツ②(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(ゲーム) 4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ 5 球技①(実習：キンボール) キンボール(基礎練習) 6 球技②(実習：キンボール) キンボール(ゲーム) 7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ 8 ラケット種目①(実習：バウンドテニス) バウンドテニス(基礎練習) 9 ラケット種目②(実習：バウンドテニス) バウンドテニス(ゲーム) 10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ 11 ラケット種目③(実習：卓球) 卓球(基礎練習) 12 ラケット種目④(実習：卓球) 卓球(ゲーム) 13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ 14 ニュースポーツ①(実習：ドッジビー) ドッジビー(基礎練習) 15 ニュースポーツ②(実習：ドッジビー) ドッジビー(ゲーム)
到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：種々のスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか、チームへの貢献度、またスコア表や感想用紙など提出物への取り組み姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。  受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「スポーツの歴史と文化ースポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
高橋佳子			
Subject Code : G15C30			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 八王子キャンパスのグラウンドや体育館を使用して様々なスポーツ種目の基礎技術を修得しゲームを実施する。ゲームを通して、自身にあった生涯スポーツを発見し楽しみながら健康・体力の維持・増進を図ることを目標とする。 実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス (授業目標) ◎A：自身にあった運動をみつけることができる。 ○E：修得した基礎技術を使用してゲームに参加できる。
授業計画	<p>1 体づくり(実習：体ほぐし) ストレッチ、体ほぐし</p> <p>2 ラケット種目①(実習：卓球) 卓球(基礎練習)</p> <p>3 ラケット種目②(実習：卓球) 卓球(ゲーム)</p> <p>4 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、リズムダンス</p> <p>5 生涯スポーツ①(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(基礎練習)</p> <p>6 生涯スポーツ②(実習：グラウンドゴルフ) グラウンドゴルフ(ゲーム)</p> <p>7 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、リズムダンス</p> <p>8 球技①(実習：キンボール) キンボール(基礎練習)</p> <p>9 球技②(実習：キンボール) キンボール(ゲーム)</p> <p>10 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、リズムダンス</p> <p>11 ニュースポーツ①(実習：ドッジビー) ドッジビー(基礎練習)</p> <p>12 ニュースポーツ②(実習：ドッジビー) ドッジビー(ゲーム)</p> <p>13 体づくり(実習：エクササイズ) ストレッチ、エクササイズ、リズムダンス</p> <p>14 ラケット種目③(実習：バドミントン) バドミントン(基礎練習)</p> <p>15 ラケット種目④(実習：バドミントン) バドミントン(ゲーム)</p>
到達目標・基準	◎A：健康・体力の維持・増進を図る姿勢を身につけることができる。 ○E：様々なスポーツ種目の基礎技術を修得できる。
事前・事後学習	事前学習：今後の自身の生活に活かせるように「生涯スポーツ」について調べておく。(30分程度) 事後学習：日常生活の中にもスポーツを取り込んでいくようにする。(60分程度)
指導方法	①準備運動としてストレッチやエクササイズを行い、その日の体調を確認する。 ②各々のスポーツ種目の基礎技術を練習し修得する。 ③ゲームのルールを説明した後、ゲームを行う。ゲームを楽しむ中で、スポーツを楽しむために何が必要かを考えさせる。 フィードバックの仕方：実技と技能カードや感想用紙を総合的に評価し、授業時に返却する。質問があった場合には、個別に対応する。
成績評価の方法・基準	A：積極的にスポーツを実施しているか受講態度、チームにおける貢献度、スコア表や提出物への取り組み姿勢を評価する。 E：各種目における技能を評価する。  受講態度30%、チームにおける貢献度30%、提出物10%、各種目における技能30%
テキスト	なし 必要に応じてプリントを配布する。

参考書	「スポーツの歴史と文化ースポーツ史を学ぶ」新井博、榊原浩晃著 道和書院 「深堀真由美のからだスッキリヨガプログラム」深堀真由美著 主婦の友社
履修上の注意	①受講資格：健康診断（心電図も含む）において問題がないと認められた者。 ②運動靴・ジャージ等、運動に適したものを各自で用意し、長爪やアクセサリ等ははずすこと。 ③事前に指定されたオリエンテーションに必ず参加すること。 ④実習期間：5日間(土曜日) 実習場所：八王子キャンパス
アクティブ・ラーニング	実習
I C Tの活用	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子、玉川明日美、ELEC			
Subject Code：G16A31			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Reading/Writingを日本人講師から、Listening/Speakingをネイティブ講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。すべての内容を通じて英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 (授業目標) ◎E：多角的なアプローチにより、4技能のバランスの取れたスキルアップを図る。 ○D：グローバルな視点を身につける (Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語的な発想や表現パターンを身につける。 (Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study.
授業計画	1 Listening and Speaking Class(LS) / Reading and Writing Class(RW)：Course Orientation LS: Course introduction and orientation / Classroom and survival English RW: Course introduction and orientation / Introduction to clothes (グループワーク) 2 LS: First meeting (Course Book Pages 4-6) / RW: Why do we wear clothes? LS: Meeting a client / Talking about yourself / Telephone numbers RW: Clothes for important days / Clothes for every day (グループワーク) 3 LS: First meeting (Course Book Pages 7-9) / RW: Why do we wear clothes? LS: Describing yourself / Interviews / Greetings RW: Staying cool or warm / Looking good (グループワーク / Web Class ) 4 LS: ESP① / RW: The history of clothes LS: Garments, Garment Parts and Colours RW: Making fabrics (グループワーク) 5 LS: You and your company (Course Book Pages 10-12) / RW: The history of clothes LS: Introducing your company / Company activities / Departments and daily activities Vocabulary Quiz: Unit 1 + ESP① RW: The first pants / Modern clothes (グループワーク / Web Class ) 6 LS: You and your company (Course Book Pages 13-15) / RW: The language of clothes LS: Numbers / Starting Conversations / Socializing RW: Suits for work / Jobs and uniforms (グループワーク/ディスカッション) 7 LS: ESP② / RW: The language of clothes LS: Types of Fabric and Fabric Care RW: Traditional costume (グループワーク/ディスカッション / Web Class ) 8 LS: Fixing an appointment (Course Book Pages 29-31) / RW: Fabrics LS: Arranging to Meet / Speaking to Reception / Fixing an Appointment Vocabulary Quiz: Unit 2 + ESP② RW: Wool / Cotton (グループワーク) 9 LS: Fixing an appointment (Course Book Pages 32-34) / RW: Fabrics LS: Dates / Telephoning / Punctuality RW: Silk / Synthetic fabrics (グループワーク / Web Class ) 10 LS: ESP③ / RW: The clothing industry LS: Fabric Processing and Patterns RW: Designers / buyers / Factory workers / Sales clerks (グループワーク) 11 LS: Review / RW: The clothing industry LS: Previously material from units 1, 2, and 5 / Vocabulary Quiz: Unit 5 + ESP③ RW: The supply chain / Protecting factory workers (グループワーク/ディスカッション / Web Class ) 12 LS: Role-Play Presentation Preparation / RW: Fashion LS: Summary of listening skills / Presentation preparation RW: Changing fashions / Clothes for everybody (グループワーク) 13 LS: Role-Play Presentations - Day 1 / RW: Fashion LS: Role-Play Presentations (ロールプレイプレゼンテーション) RW: T-shirts and jeans (グループワーク / Web Class ) 14 LS: Role-Play Presentations - Day 2 / RW: Crazy clothes LS: Role-Play Presentations (ロールプレイプレゼンテーション) RW: Fashions shows / Fashion victims (グループワーク) 15 LS: Role-Play Presentations - Day 3 Course Wrap-up / RW: Crazy clothes LS: Role-Play Presentations / (ロールプレイプレゼンテーション)

RW: Street fashion / Be yourself (グループワーク / Web Class)	
到達目標・基準	<p>◎E : 言われたことや書かれたことを正しく理解し、英語らしい表現で応答することができる。 ○D : 英語圏の文化や発想を知り、場面に適したコミュニケーションや表現の方法を身につける。</p> <p>(RW) E : スキミングやスキニング等のリーディング技法を用い、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p> <p>(LS) B : Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D : Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.</p>
事前・事後学習	<p>事前学習 : (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分) (LS) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.).(約20分)</p> <p>事後学習 : (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約20分) (LS) Review any new vocabulary (the specific pronunciation, meaning and spelling) introduced in class and practice creating short original dialogues based on the context/vocabulary/grammar studied. (約20分)</p>
指導方法	<p>(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成の理解など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や雑誌の記事なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会を複数回もつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。</p> <p>(LS) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では服飾関連業務におけるその具体的な活用を指導する)</p> <p>フィードバックの方法 : 発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却。</p>
成績評価の方法・基準	<p>(RW) E : 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D : 小テストや課題作文、発表等で評価する。</p> <p>小テスト・課題 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%</p> <p>(LS) B : The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストから評価する) D : Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストを基に評価する)</p> <p>Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>*最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。</p>
テキスト	<p>Business Venture 1 Roger Barnard &amp; Jeff Cady (2016) Oxford University Press Clothes Then and Now Richard Northcott (2018) Oxford University Press</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク (RW毎回) ロールプレイプレゼンテーション (LS13-15週) ディスカッション (RW適宜)
ICTの活用	ICT: Web Classで課題の提示及び復習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子、玉川明日美、ELEC			
Subject Code : G16C32			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Reading/Writingを日本人講師から、Listening/Speakingをネイティブ講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。すべての内容を通じて英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 (授業目標) ◎E：多角的なアプローチにより、4技能のバランスの取れたスキルアップを図る。 ○D：グローバルな視点を身につける  (Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語的な発想や表現パターンを身につける。 (Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study.
授業計画	1 Listening and Speaking Class(LS) / Reading and Writing Class(RW)： Introduction LS: Review of Semester 1 / ESP Language RW: Before reading:Thinking about colors (グループワーク) 2 LS: Requests and offers (Course Book Pages 35-37) / RW: What is color LS: Placing an Order / Requests and Offers / Decimals and Exchange Rates RW: Light wavelength (グループワーク) 3 LS: Requests and offers (Course Book Pages 38-40) / RW: What is color LS: Checking Information / Ordering by Phone / E-commerce RW: Color-blind (グループワーク) 4 LS: ESP① / RW: The color of culture LS: Garment Production and Packaging RW: Colors in China and India (グループワーク) 5 LS: Opinions and preferences (Course Book Pages 54-56) / RW: The color of culture LS: Choosing Candidates / Making Comparisons / Agreeing and Disagreeing Vocabulary Quiz: Unit 6 + ESP① RW: Colors in Japan and other countries (グループワーク) 6 LS: Opinions and preferences (Course Book Pages 57-59) / RW: The color of culture LS: Dimensions and Weight / New Offices / Interrupting RW: Presentation① (プレゼンテーション / Web Class ) 7 LS: ESP② / RW: The color of nature LS: Fashion Promoting and Marketing RW: Rainbow / Uluru (グループワーク) 8 LS: Directions and invitations (Course Book Pages 60-62) / RW: The color of nature LS: Finding your Way / Getting and Giving Directions / Apologies and Invitations Vocabulary Quiz: Unit 9 + ESP② RW: The colors of nature in countries (グループワーク) 9 LS: Directions and invitations (Course Book Pages 63-65) / RW: The color of nature LS: Travel Times / How do I get there? / Transportation RW: Presentation② (プレゼンテーション / Web Class ) 10 LS: ESP③ / RW: Celebration of color LS: Fashion Merchandising and Displays RW: Celebrations in India (グループワーク) 11 LS: Review / RW: Celebration of color LS: Previously material from units 6, 9, and 10 / Vocabulary Quiz: Unit 10 + ESP③ RW: Celebrations in China and Mexico (グループワーク) 12 LS: Role-Play Presentation Preparation / RW: Celebration of color LS: Summary of Listening skills / Presentation preparation RW: Celebrations in the U.S and Japan (グループワーク) 13 LS: Role-Play Presentations - Day 1 / RW: What do you think? LS: Role-Play Presentations (プレゼンテーション) RW: Presentation③ (プレゼンテーション / Web Class ) 14 LS: Role-Play Presentations - Day 2 / RW: What do you think? LS: Role-Play Presentations (プレゼンテーション) RW: Colors and the meaning (グループワーク) 15 LS: Role-Play Presentations - Day 3, Course Wrap-up / RW: After reading activities LS: Role-Play Presentations / Review (プレゼンテーション) RW: Review / Open discussion (グループワーク / ディスカッション )

到達目標・基準	<p>◎E：言われたことや書かれたことを正しく理解し、英語らしい表現で応答することができる。 ○D：英語圏の文化や発想を知り、場面に適したコミュニケーションや表現の方法を身につける。</p> <p>(RW) E：スキミングやスキニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D：語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。</p> <p>(LS) B：Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D：Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：(RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分) (LR) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.).(約20分)</p> <p>事後学習：(RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約20分) (LR) Review any new vocabulary (the specific pronunciation, meaning and spelling) introduced in class and practice creating short original dialogues based on the context/vocabulary/grammar studied. (約20分)</p>
指導方法	<p>(RW) リーディングスキル（主旨の把握、文章構成の理解など）の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や雑誌の記事なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会を複数回もつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。</p> <p>(LR) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では服飾関連業務におけるその具体的な活用を指導する)</p> <p>フィードバックの方法：発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却</p>
成績評価の方法・基準	<p>(RW) E：各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D：小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト・課題 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%</p> <p>(LR) B：The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストから評価する) D：Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストを基に評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%</p> <p>*最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。</p>
テキスト	<p>Business Venture 1 Roger Barnard &amp; Jeff Cady (2016) Oxford University Press True Colors Diane Naughton(2014) Cambridge University Press</p>
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	<p>グループワーク (RW毎回) プレゼンテーション (RW6, 9, 13週) ロールプレイプレゼンテーション (LS13-15週) ディスカッション (RW適宜)</p>
ICTの活用	ICT: Web Classでの課題の提示及び復習 テキスト附属のICT教材の実施

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：必修
担当教員			
中村公子、ELEC			
Subject Code：G16A33			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要)</p> <p>読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Reading/Writingを日本人講師から、Listening/Speakingをネイティブ講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。すべての内容を通じて英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎E：多角的なアプローチにより、4技能のバランスの取れたスキルアップを図る。 ○D：グローバルな視点を身につける</p> <p>(Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語的な発想や表現パターンを身につける。 (Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study.</p>
授業計画	<p>1 Listening and Speaking Class(LS) / Reading and Writing Class(RW):Course Orientation LS: Course introduction and orientation / Classroom and survival English RW: Course orientation / Introduction to food (グループワーク)</p> <p>2 LS: First meeting (Course Book Pages 4-6) / RW: Food for life LS: Meeting a client / Talking about yourself / Telephone numbers RW: Proteins / Carbohydrates (グループワーク)</p> <p>3 LS: First meeting (Course Book Pages 7-9) / RW: Food for life LS: Describing yourself / Interviews / Greetings RW: Fats / Vitamins / Minerals (グループワーク)</p> <p>4 LS: ESP① / RW: Food producers LS: Food, Food types, Food groups RW: Arable Farmers / livestock Farmers / Fishermen (グループワーク)</p> <p>5 LS: You and your company (Course Book Pages 10-12) / RW: Food origins LS: Introducing your company / Company activities / Departments and daily activities Vocabulary Quiz: Unit 1 + ESP① RW: Popcorn / Chocolate / Ice cream / Potato chips (グループワーク)</p> <p>6 LS: You and your company (Course Book Pages 13-15) / RW:Typical dishes LS: Numbers / Starting Conversations / Socializing RW: Typical dishes in Italy, Korea, Mexico, and Morocco (グループワーク)</p> <p>7 LS: ESP② / RW: Typical dishes LS: Food preparation / Weights and measures RW: Presentation about Typical dishes in some countries (プレゼンテーション / Web Class )</p> <p>8 LS: Fixing an appointment (Course Book Pages 29-31) / RW: Cool drinks LS: Arranging to Meet / Speaking to Reception / Fixing an Appointment Vocabulary Quiz: Unit 2 + ESP② RW: Special drinks in India, Sudan, and Egypt (グループワーク)</p> <p>9 LS: Fixing an appointment (Course Book Pages 32-34) / RW: Cool drinks LS: Dates / Telephoning / Punctuality RW: Presentation about drinks in some countries (プレゼンテーション / Web Class )</p> <p>10 LS: ESP③ / RW: Street food LS: Food preparation methods RW: Street food in Brazil, Thailand,Belgium, and Turkey (グループワーク)</p> <p>11 LS: Review / RW: Street food LS: Previously material from units 1, 2, and 5 / Vocabulary Quiz: Unit 5 + ESP③ RW: Presentation about street food in some countries (プレゼンテーション / Web Class )</p> <p>12 LS: Role-Play Presentation Preparation / RW: Special desserts LS: Summary of listening / Presentation preparation RW: Special desserts in the U.K, Indonesia, Canada, and Peru (グループワーク)</p> <p>13 LS: Role-Play Presentations - Day 1 / RW: Special desserts LS: Role-Play Presentations (プレゼンテーション) RW: Presentation about special desserts in some countries (プレゼンテーション / Web Class )</p> <p>14 LS: Role-Play Presentations - Day 2 / RW: Giving thanks LS: Role-Play Presentations (プレゼンテーション) RW: Thanksgiving in the U.S.A, Ghana, Korea, and India (グループワーク)</p>

	15 LS: Role-Play Presentations - Day 3, Course Wrap-up / RW: Giving thanks LS: Role-Play Presentations / Review (プレゼンテーション) RW: Presentation about festivals (プレゼンテーション / Web Class)
到達目標・基準	◎E: 言われたことや書かれたことを正しく理解し、英語らしい表現で応答することができる。 ○D: 英語圏の文化や発想を知り、場面に適したコミュニケーションや表現の方法を身につける。  (RW) E: スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D: 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。 (LS) B: Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D: Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.
事前・事後学習	事前学習: (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分) (LR) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (約20分) 事後学習: (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約20分) (LR) Review any new vocabulary (the specific pronunciation, meaning and spelling) introduced in class and practice creating short original dialogues based on the context/vocabulary/grammar studied. (約20分)
指導方法	(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や雑誌の記事なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会を複数回もつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。  (LR) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では食物関連事業におけるその具体的な活用を指導する)  フィードバックの方法: 発表・小テストの実施と、その解説及びコメントの返却
成績評価の方法・基準	(RW) E: 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D: 小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト・課題 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%  (LR) B: The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストで評価する) D: Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストで評価する) Role-Play Presentation 35% Listening Test 25% Vocabulary Quizzes 20% Participation 20%  *最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。
テキスト	Business Venture 1 Roger Barnard & Jeff Cady (2016) Oxford University Press Food Around the World Robert Quinn (2017) Oxford University Press
参考書	授業の際に指示する
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。
アクティブ・ラーニング	グループワーク (RW毎回) プレゼンテーション (RW7, 9, 11, 13, 15週) ロールプレイ (LS13-15週) ディスカッション (適宜)
I C Tの活用	ICT: Web Classでの課題の提示及び復習

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
中村公子、ELEC			
Subject Code：G16C34			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身につけられるよう、Reading/Writingを日本人講師から、Listening/Speakingをネイティブ講師から学ぶ。RWでは、英文を正確に読み取るためのリーディングスキルと、自らの考えを伝えるためのライティング技法を学ぶ。LSでは、ビジネスシーンでのコミュニケーションが円滑に運ぶための表現やフレーズを学び、ロールプレイなどのアクティビティを通して身につける。すべての内容を通じて英語圏におけるものの考え方や文化的背景を知る。 (授業目標) ◎E：多角的なアプローチにより、4技能のバランスの取れたスキルアップを図る。 ○D：グローバルな視点を身につける  (Reading and Writing Class) E・D：さまざまな国の観点から書かれた文章を読み、英語的な発想や表現パターンを身につける。 (Listening and Speaking Class) B：Understand and use a range of phrases to repair communication breakdowns and maintain smoother conversations. D：Understand and use vocabulary related to their particular area of study.
授業計画	1 Listening and Speaking Class(LS)：Review of Semester 1 / Reading and Writing Class(RW)：Cells and growth LS: Review of Semester 1 / ESP Language RW: Inside your cell / Different cells / Cell Reproduction (グループワーク) 2 LS: Requests and offers (Course Book Pages 35-37) / RW: Cells and Growth LS: Placing an Order / Requests and Offers / Decimals and Exchange Rates RW: The first nine months / Childhood / Adolescence / Adulthood and old age (グループワーク / Web Class ) 3 LS: Requests and offers (Course Book Pages 38-40) / RW: Skin, Hair, and Nails LS: Checking Information / Ordering by Phone / E-commerce RW: Your Skin (グループワーク) 4 LS: ESP① / RW: Skin, Hair, and Nails LS: Essential Macronutrients and their Sources RW: Your Hair / Your Nails (グループワーク / Web Class ) 5 LS: Opinions and preferences (Course Book Pages 54-56) / RW: Bones and Muscles LS: Choosing Candidates / Making Comparisons / Agreeing and Disagreeing Vocabulary Quiz: Unit 6 + ESP① RW: Your Skeleton / Inside Your Bones (グループワーク) 6 LS: Opinions and preferences (Course Book Pages 57-59) / RW: Bones and Muscles LS: Dimensions and Weight / New Offices / Interrupting RW: Your Muscles / Protein and Calcium (グループワーク / Web Class ) 7 LS: ESP② / RW: Lungs and Breathing LS: Essential Micronutrients and their Sources RW: Breathing in / In Your lungs / Breathing out (グループワーク) 8 LS: Directions and invitations (Course Book Pages 60-62) / RW: Lungs and Breathing LS: Finding your Way / Getting and Giving Directions / Apologies and Invitations Vocabulary Quiz: Unit 9 + ESP② RW: Underwater / At high altitudes / Asthma / Don't smoke (グループワーク / Web Class ) 9 LS: Directions and invitations (Course Book Pages 63-65) / RW: Blood and Circulation LS: Travel Times / How do I get there? / Transportation RW: Your Blood (グループワーク) 10 LS: ESP③ / RW: Blood and Circulation LS: Food Labels and Portions RW: How Your Heart Works / Cleaning Your Blood (グループワーク / Web Class ) 11 LS: Review / RW: Food and Digestion LS: Previously material from units 6, 9, and 10 / Vocabulary Quiz: Unit 10 + ESP③ RW: Healthy Food / Digestion (グループワーク) 12 LS: Role-Play Presentation Preparation / RW: Food and Digestion LS: Summary of Listening skills / Presentation preparation (グループワーク) RW: Sugar and Insulin (グループワーク / Web Class ) 13 LS: Role-Play Presentations - Day 1 / RW: The Brain and Nerves LS: Role-Play Presentations (ロールプレイプレゼンテーション) RW: How Nerve cells work / Your Brain (グループワーク) 14 LS: Role-Play Presentations - Day 2 / RW: The Brain and Nerves LS: Role-Play Presentations (ロールプレイプレゼンテーション) RW: Your Spinal Cord / Nervous Diseases (グループワーク / Web Class )

	15	LS: Role-Play Presentations - Day 3, Course Wrap-up / RW: Your Body's Defenses LS: Role-Play Presentations / Review (ロールプレイプレゼンテーション) RW: Healing Broken Bones / Healing Cuts / Help Your Body (グループワーク / Web Class)
到達目標・基準	◎E : 言われたことや書かれたことを正しく理解し、英語らしい表現で応答することができる。 ○D : 英語圏の文化や発想を知り、場面に適したコミュニケーションや表現の方法を身につける。  (RW) E : スキミングやスキヤニングなどのリーディング技法を用いて、英文の主旨を正確に掴むことができる。 D : 語彙力を増やし、さまざまな表現を用いて、自らの考えを英語で伝えることができる。 (LS) B : Perform common communicative tasks, including using the telephone, making appointments, agreeing/disagreeing, and giving directions. D : Understand and use a variety of language to talk about themselves and their workplaces.	
事前・事後学習	事前学習 : (RW) 小テストに備えて学習する。発表等の準備を進める。(約20分) (LR) Prepare for their presentations (writing and editing their scripts, practice reading their scripts out loud etc.). (約20分) 事後学習 : (RW) テキストの内容に関連したワークや課題に取り組む。(約20分) (LR) Review any new vocabulary (the specific pronunciation, meaning and spelling) introduced in class and practice creating short original dialogues based on the context/vocabulary/grammar studied. (約20分)	
指導方法	(RW) リーディングスキル(主旨の把握、文章構成など)の育成を目標に、各種ワークやアクティビティを与えながら、楽しんで英文を読むことができるよう指導する。関連する映画や雑誌の記事なども適宜取り入れる。また、テーマを与えて作文し、それを発表させる機会を複数回もつことで、英語での発信力も養えるよう指導する。  (LR) This course progresses in three-lesson cycles. In the first two lessons, students focus on general business English that can be used in a variety of contexts. In the third lesson of the cycle, students focus on vocabulary specific to their area to study. In these lessons, where possible, students practice using this specific vocabulary in previously studied situations. After each cycle, a vocabulary quiz is administered to assess language retention and encourage language review. (3レッスンを1ユニットとし、最初の2回でビジネス英語を、3回目では食物関連業務におけるその具体的な活用を指導する)  フィードバックの方法: 発表。小テストの実施と、その解説及びコメントの返却。	
成績評価の方法・基準	(RW) E : 各ユニットのワークや課題、定期テストで評価する。 D : 小テストや課題作文、発表等で評価する。 小テスト・課題 20% 課題・提出物・貢献度 30% 定期試験 50%  (LR) B : The students' speaking ability is measured through role-play presentations, and their listening ability is assessed via a listening test. (スピーキング力はロールプレイの発表で、リスニング力はテストで評価する) D : Language retention is assessed by vocabulary quiz. (語彙力は単語テストで評価する) Role-Play Presentation (ロールプレイ発表) 35% Listening Test (リスニングテスト) 25% Vocabulary Quizzes (単語テスト) 20% Participation (貢献度) 20%  *最終的には、RW/LSそれぞれの評価を合わせて100%としたものを算出する。	
テキスト	Business Venture 1 Roger Barnard & Jeff Cady (2016) Oxford University Press Your Amazing Body Robert Quinn (2016) Oxford University Press	
参考書	授業の際に指示する	
履修上の注意	グローバル化の進む社会での基礎を作る授業です。積極的に取り組み英語での発信力を高めましょう。毎回辞書を用意すること。	
アクティブ・ラーニング	グループワーク (RW毎回) ロールプレイプレゼンテーション (LS13-15週)	
ICTの活用	ICT: Web Classでの課題の提示及び復習	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
齋藤公一			
Subject Code : G16C35			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 最初級のフランス語を学んでいく。フランス語は日本人にはとても発音しやすい言葉である。授業ではたいへん規則的にできている文字と音の関係を覚えていき、文法的な説明はできるだけ簡単にし、聞き取りを重視し発音練習をする。さらに、自分や身の周りについての簡単な会話や旅行会話を練習し、楽しく基礎会話力をつけていく。練習問題で反復しながらフランス語に対する不安やストレスを感じないように学習する。また、フランスの文化、生活も見えていく予定である。 (授業目標) B：フランス語を使うことで、コミュニケーションをする意欲が湧く。 ○D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
授業計画	1 オリエンテーション 授業の概要、アンケート 2 アルファベ、日本語の中にあるフランス語、Lecon 1 アルファベ、綴り字の読み方のルール1、「私は～です」 3 アルファベ、Lecon 1自分の名前の綴り字をフランス語のアルファベで言う (プレゼンテーション) 綴り字の読み方のルール2、「私は日本人です」数字(1) 自分の名前をアルファベットで一文字ずつフランス語で言う (各自プレゼンテーション) 4 Lecon 1、Lecon 2 Lecon 1 Exercices、綴り字の読み方のルール3、国籍 5 Lecon 2 綴り字の読み方のルール4、職業、数字(2) 6 Lecon 2、Lecon 3 Lecon 2 Exercices、綴り字の読み方のルール4、名前を言う 7 Lecon 3 (プレゼンテーション) 住んでいる場所を言う、国名、自己紹介 (各自プレゼンテーション) 8 Lecon 3、Lecon 4 Lecon 3 Exercices、綴り字の読み方のルール5、人を紹介する 9 Lecon 4 話せる言葉を聞く・言う、数字(3)、動詞について 10 Lecon 4 1) 動詞 etre 「...である、ある、いる」 2) avoir 「持っている」 11 Lecon 4 Lecon 4 Exercices、フランス語で遊びましょう 12 Lecon 5 「それはどこにありますか？」否定文 13 Lecon 5 (プレゼンテーション) 相手に今までに学んだフランス語で質問する (各自プレゼンテーション) 不定冠詞、数字(4) 14 Lecon 6 Lecon 5 Exercices、年齢、数字(5)、曜日 15 Lecon 6 Lecon 6 Exercices、Revisions
到達目標・基準	B：基本的なことでフランス語圏の人と臆せずコミュニケーションができる。 ○D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。
事前・事後学習	事前学習：前回学んだ講義内容をノートに改めて書き写し、練習問題を解く。(60分程度) テキストを音読し、文章を覚える。(60分程度) 事後学習：今回学んだ内容をまず音読し、講義内容を理解しているかどうか確認する。(60分程度)
指導方法	教科書の内容を板書で分かりやすく説明をする。CDでフランス語の音を聞き、次にできるだけフランス語を声に出して発音してもらい、文字の読み方がしっかり覚えられるようにしていく。基本表現をまさに「身」につけて表現力を拡張していく。そうした表現を実際を使ってみんなで会話の練習をする。全員が初心者なので恥ずかしがったり照れたりしないように、失敗を恐れさせず楽しく進めていく。 フィードバックの方法：授業内課題についてはコメント記載のうえ返却する
成績評価の方法・基準	B：多少間違っても相手に伝えるという意欲を評価する。 D：授業での課題・筆記試験を評価する。 E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%

テキスト	Loic Rogues 「プティットウ・コンヴェルサسیون」 (駿河台出版社) 2300円+税
参考書	
履修上の注意	フランス語をやりたいという意思はあるはずだが、できれば何らかの目標 (フランスへ行きたいとか、フランス人とフランス語で話したいとか) を自分なりに設定しておくとう学習意欲は少なからず湧いてくる。積み重ねが大切なので飽きたり、あきらめたりしないように。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないように。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
齋藤公一			
Subject Code : G16C36			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) フランス語1に続けて最初級のフランス語を学んでいく。フランス語は日本人にはとても発音しやすい言葉である。授業ではたいへん規則的にできている文字と音の関係を覚えていき、文法的な説明はできるだけ簡単にし、聞き取りを重視し発音練習をする。さらに、自分や身の周りについての簡単な会話や旅行会話を練習し、楽しく基礎会話力をつけていく。練習問題で反復しながらフランス語に対する不安やストレスを感じないように学習する。また、フランスの文化、生活も見ていく予定である。 (授業目標) B：フランス語を使うことで、コミュニケーションをする意欲が湧く。 ○D：フランスの文化や社会を知り、日本との違いを確認して、視野を広げることができる。 ◎E：挨拶、願望、意思を伝えるフランス語の基本表現を操作できる。
授業計画	1 Lecon 7 体調を伝える、数字(6)、etre、 2 Lecon 7、Lecon 8 (プレゼンテーション) Lecon7 Exercices、もの(1)、値段を聞く、買い物(各自プレゼンテーション)、数字(7) 3 Lecon 8 Lecon 8 Exercices、Revisions、Cahier de vacances 4 Lecon 9 物(2)、「～があります」、不定冠詞と定冠詞 5 Lecon 10 (プレゼンテーション) Lecon 9 Exercices、好みについて話す(各自プレゼンテーション)、Est-ce que、数字(8) 6 Lecon 11 Lecon 10 Exercices、スポーツについて話す、数字(9)、いろいろな動詞の原形、 7 Lecon 12 (プレゼンテーション) Lecon 11 Exercices、家族について話す(各自プレゼンテーション)、数字(10)、所有形容詞 8 Lecon 12 Lecon 12 Exercices、Revisions、動詞の活用 9 Lecon 13 時刻、電車の切符を買う、学校の時間割を聞く・言う、数字(11)、 10 Lecon 14 (プレゼンテーション) Lecon 13 Exercices、料理(1)と飲み物、カフェで注文する(各自プレゼンテーション)、数字(12) 11 Lecon 15 Lecon 14 Exercices、料理(2)、食材を買う、数字(13)、部分冠詞 12 Lecon 15、dans la classe Lecon 14 Exercices、日常でよく使う言葉 13 supplement 1 Lecon 1～5 14 supplement 2 Lecon 6～10 15 supplement 3 Lecon 11～15
到達目標・基準	B：基本的なことでフランス語圏の人と臆せずコミュニケーションができる。 ○D：フランスだけでなく外国に関心を持ち、日本を今までと違う角度から見るができる。 ◎E：基本的なフランス語の表現ができる。
事前・事後学習	事前学習：前回学んだ講義内容をノートに改めて書き写し、練習問題を解く。(60分程度) テキストを音読し、文章を覚える。(60分程度) 事後学習：今回学んだ内容をまず音読し、講義内容を理解しているかどうか確認する。(60分程度)
指導方法	教科書の内容を板書で分かりやすく説明をする。フランス語の音を聞き、次にできるだけフランス語を声に出して発音してもらい、文字の読み方がしっかり覚えられるようにしていく。基本表現をまさに「身」につけて表現力を拡張していく。そうした表現を実際に使ってみんなで会話の練習をする。全員が初心者なので恥ずかしがったり照れたりしないように、失敗を恐れさせず楽しく進めていく。 フィードバックの方法：授業内課題についてはコメント記載のうえ返却する
成績評価の方法・基準	B：多少間違っても相手に伝えるという意欲を評価する。 D：授業での課題・筆記試験を評価する。 E：授業での口頭の受け答えを評価する。 授業での課題20%、定期試験60%、授業態度20%

テキスト	Loic Rogues 「プティットウ・コンヴェルサシオン」 (駿河台出版社) 2300円+税
参考書	
履修上の注意	フランス語をやりたいという意思はあるはずだが、できれば何らかの目標 (フランスへ行きたいとか、フランス人とフランス語で話したいとか) を自分なりに設定しておくことと学習意欲は少なからず湧いてくる。積み重ねが大切なので飽きたり、あきらめたりしないように。1回でも欠席するとそれをきっかけに分からなくなるので欠席は極力しないように。 原則として「フランス語1」を履修していること。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	総合：選択
担当教員			
史 悦			
Subject Code : G16C37			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	<p>(授業概要)</p> <p>この授業は初めて中国語を勉強するものを対象とし、中国語の発音・声調から、挨拶、別れ、お礼、お詫びなど基本的な会話表現を身に付ける。</p> <p>(授業目標)</p> <p>◎B：中国語の発音の仕方をおぼえ、単語量を増やし、挨拶用語、基本的な文法事項や会話表現を身に付けて中国語によるコミュニケーション力を向上させることができる</p> <p>○E：「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能のうち「聞く・話す」能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「1級」レベル到達を目標とする。</p>		
授業計画	1	ガイダンス 自己紹介、授業内容、授業の進め方、学ぶ方法に関する説明。 挨拶：こんにちは ピンイン：声調と母音(単母音)	
	2	発音、挨拶 ピンイン：複合母音(二重母音・三重母音) 挨拶：ありがとう	
	3	発音、文法 (グループワーク) ピンイン：子音、巻舌音その他の子音 文法：疑問代詞“何に?”、“是”構文、疑問文 グループワーク：自己紹介発表	
	4	発音、文法 (グループワーク) ピンイン：前鼻音n、後鼻音ng の区別、zhi, ch, sh, rの区別 文法：彼女は～です グループワーク：写真中の人を紹介する。	
	5	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：r 化の発音、有気音と無気音の区別 文法：1. 100より小さい数字 2. 変化を表す“了” グループワーク：家族の状況を紹介する。	
	6	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 能願動詞“会”① 2. 形容詞述語文 3. 疑問代詞“どうですか?”① グループワーク：言語のスキルについて尋ねて記録し、発表	
	7	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ② 文法：1. 日にちの表し方①：月、日、曜日 2. 名詞述語文 3. 連動文 グループワーク：お誕生日を尋ね	
	8	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ③ 文法：1. 能願動詞“想” 2. 金額の表し 3. 疑問代詞“多少” グループワーク：一週間計画	
	9	発音練習、文法 (グループワーク) 発音練習：2音節の声調の組み合わせ④ 文法：……どこですか? ……で～します グループワーク：友達の仕事を尋ね、発表	
	10	“有”を使った文 (グループワーク) 発音：軽声の読み方 文法：“有”を使った文、能願動詞“能” グループワーク：グループのメンバーの座席の位置を紹介する	
	11	時間の表し方 (グループワーク) 発音：軽声の機能 文法：時間の表し方、時間詞と状語 グループワーク：お互いに1日の生活習慣を尋ね、発表	
	12	主述述語文 (グループワーク) 発音：3音節の声調の組み合わせ① 文法：1. 主述述語文 2. 能願動詞“会”② グループワーク：天気状況を尋ね、発表	
	13	“在……?”進行形 (グループワーク) 発音：3音節の声調の組み合わせ② 文法：“在……?”進行形、電話番号の表し方 グループワーク：お互いの電話番号を尋ねて、グループごとにまとめを発表	
	14	発生また完成を表す“了” (グループワーク) 発音：3音節の声調の組み合わせ③ 文法：発生または完成を表す“了” グループワーク：1日の活動について尋ねて、グループごとにまとめを発表	

	15 “是……的”構文：強調する（グループワーク） 発音：3音節の声調の組み合わせ④ 文法：“是……的”構文：強調する グループワーク：できることを尋ねて、グループごとにまとめを発表
到達目標・基準	◎B：基本発音を習得し、ピンインを読んで発声できる。中国語での挨拶や自己紹介、もの尋ね方と答え、疑問文、形容詞表現、買い物等での簡単な基本表現を身に付ける。 ○E：1週間に5前後のキーセンテンスと、10ほどの単語を覚え、1学期間で70のキーセンテンスと、150程度の単語を自由に使えるようになる。最低限でピンインを読める、基本の挨拶と自己紹介できるようになる。
事前・事後学習	事前学習：テキストの音声ファイルダウンロードして、発音と本文を繰り返し予習し、分からない語彙を調べて下さい。（45分以上） 事後学習：語彙の暗記、本文の暗唱をし、宿題（毎回の授業で指示する）を完成して下さい。CDを聞きながら、実際に声を出して練習して下さい。（45分以上）
指導方法	ほぼ毎回小テスト（筆記）を行う。難しい発音も繰り返し練習して身に付けられるよう、克服のコツを教えます。 フィードバックの仕方：①小テスト実施 ②小テストの結果にコメント記載のうえ返却 ③授業後におけるコメントへの質問対応
成績評価の方法・基準	B：コミュニケーション能力：授業への取り組み方、グループワークでのグループ内の役割、進行協力態度を評価する E：課題の提出と小テスト結果、定期試験結果を評価する。 評価の割合は、BとEそれぞれ30%ずつ、定期試験40%とします。
テキスト	『中国語の世界標準テキスト1』北京語言大学出版社編、 出版社：株式会社スプリックス 出版日：2015年8月1日
参考書	以下のものを推薦します。 中日辞典：『小学館中日辞典（第3版）』、『講談社中日辞典（第3版）』、『東方中国語辞典』 日中辞典：『小学館日中辞典（第3版）』、『講談社日中辞典』 電子辞書を利用する場合も、上に挙げた中国語辞典を搭載したものを選んでください。 文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（相原茂ほか著・同学舎）
履修上の注意	履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことも強く期待される。 準備学習を十分に行わなければ、身につけるべき内容を消化できなくなる可能性があるため、真剣かつ計画的に取り組んでほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワーク
I C Tの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	総合：選択
担当教員			
史 悦			
Subject Code:G16C38			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 中国語の発音、語彙、文法、表現などの各要素を丁寧に偏りなく学習し、全体として初級レベルの基礎をしっかりと身につけます。 (授業目標) ◎B：中国語の発音の仕方をおぼえ、単語量を増やし、挨拶用語、基本的な文法事項や会話表現を身に付けて中国語によるコミュニケーション力を向上させることができる ○E：「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能のうち「聞く・話す」能力を養成し、「HSK 中国漢語水平考試」(中国国家教育部認可の中国語国家試験)の「2級」レベル到達を目標とする。
授業計画	1 復習・概数の表し方 (グループワーク) 1. 春学期の学習内容の復習 2. 概数の表し方：几、多 3. グループワーク：お互いに旅行で一番行きたい所、その理由を発表する 2 疑問文 (グループワーク) 1. “是不是”を使った疑問文 2. 代詞“每”、疑問代詞“多” 3. グループワーク：お互いに相手の基礎情報と運動状況について尋ねて、発表する 3 “的”を使った文 (グループワーク) 1. “的”を使った文 2. “一下”を使った文、副詞“真” 3. グループワーク：絵を書きながら自分の部屋を紹介する 4. “是……的”構文 (グループワーク) 1. “是……的”構文：行為を強調する 2. 時間を表す：……時 3. グループワーク：写真に、誕生日パーティーどのように準備したか話す 5. 副詞 (グループワーク) 1. 副詞：“就” “還” ① 2. “有点儿” 3. グループワーク：ある物事に対する見方を尋ねて、発表する 6. 関連詞 (グループワーク) 1. 疑問代詞“怎？” 2. 原因表し関連詞 3. グループワーク：“怎？”を用いてお互いにQ&Aをし、発表する 7. 場所、時間、目的の距離を表す (グループワーク) 1. 場所、時間、目的の距離を表す 2. 副詞“就” “還” ② 3. グループワーク：お誕生日のお祝いの仕方について尋ね、話す 8. 兼語文、動詞の重ね型 (グループワーク) 1. 疑問文“……，好？？” 2. 兼語文 3. 動詞の重ね型 4. グループワーク：兼語文使って、お互いに練習する 9. 結果補語、順序を表す (グループワーク) 1. 結果補語 2. 順序を表す“第～” 3. グループワーク：結果補語を使って文を作る練習する 10. 命令文 (グループワーク) 1. 命令文：“不要……了” / “別……了” 2. 介詞：“对” 3. グループワーク：“对”を使って文を作る練習する 11. 比べるを表す (グループワーク) 1. 比べる表す“比”構文① 2. 定語になる動詞 3. 助動詞“可能” 4. グループワーク：実際の状況に合わせて“比”構文を作る 12. 状態補語 (グループワーク) 1. 状態補語 2. 比べる表す“比”構文② 3. グループワーク：“比”構文を並べるゲームをする 「A比B+V+得+adj 、「A+V+得+比B+adj の文型を使いましょう。 13. 状態の表し方 (グループワーク) 1. アスペクト助詞“着” 2. 反語文“不是……？？” 3. 介詞“往”

	<p>14. 4. グループワーク：アスペクト助詞“着”を用いて写真の内容を述べる。経験を伝えるときに使う表現（グループワーク）</p> <p>1. アスペクト助詞“過”</p> <p>2. 関連詞“……但是……”</p> <p>3. 動量詞“次”</p> <p>4. グループワーク：アスペクト助詞“過”を用いて自身が経験した事を話してみる</p> <p>15. 動作の状態の表し方（グループワーク）</p> <p>1. 動作の状態“要……了”</p> <p>2. “都……了”構文</p> <p>3. グループワーク：自分や友達が今後数か月で学習・生活・仕事においてどのような計画や変化があるか、話してみる。“快要/快/就要/要……了”を使って発表しましょう。</p>
到達目標・基準	<p>◎B：春学期の学習に引き続き、様々な場面で用いる実用的な会話文をきる力を身につける。また「ピンイン」を正確に読み、聞き取る力も徹底的にトレーニングする。初級文法を学び、聴解力を高めるとともに読解力の養成も行う。</p> <p>○E：最低限でも学んだ基本的な文法を使って、簡単な文章を作成することができる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：テキストの音声ファイルダウンロードして、発音と本文を繰り返し予習し、分からない語彙を調べて下さい。（30分以上）</p> <p>事後学習：語彙の暗記、本文の暗唱をし、宿題・レポート（毎回の授業で指示する）を完成して下さい。CDを聞きながら、実際に声を出して練習して下さい。（60分以上）</p>
指導方法	<p>ほぼ毎回小テスト（筆記）を行う。習った文法・フレーズを応用して、グループワークのディスカッションと発表できる。楽しく勉強しながら中国語のレベルを高めていきます。</p> <p>HSK問題の類型を熟知させ、出題傾向を把握させるようにします。また、HSK試験を受験したい場合、個別指導にも対応します。</p> <p>フィードバックの仕方：①小テスト実施 ②小テストの結果にコメント記載のうえ返却 ③授業後におけるコメントへの質問対応</p>
成績評価の方法・基準	<p>B：コミュニケーション能力：授業への取り組み方、グループワークでのグループ内の役割、進行協力態度を評価する。</p> <p>E：課題の提出と小テスト結果、定期試験結果を評価する。</p> <p>評価の割合は、BとEそれぞれ30%ずつ、定期試験40%とします。</p>
テキスト	<p>『中国語の世界標準テキスト2』北京語言大学出版社編、</p> <p>出版社：株式会社スプリックス 出版日：2015年8月1日</p>
参考書	<p>以下のものを推薦します。</p> <p>中日辞典：『小学館中日辞典（第3版）』、『講談社中日辞典（第3版）』、『東方中国語辞典』</p> <p>日中辞典：『小学館日中辞典（第3版）』、『講談社日中辞典』</p> <p>電子辞書を利用する場合も、上に挙げた中国語辞典を搭載したものを選んでください。</p> <p>文法参考書：『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』（相原茂ほか著・同学舎）</p>
履修上の注意	<p>履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことも強く期待される。</p> <p>準備学習を十分に行わなければ、身につけるべき内容を消化できなくなる可能性があるため、真剣かつ計画的に取り組んでほしい。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク
ICTの活用	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜 珞嬉			
Subject Code:G16C39			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) ハングル(韓国語の文字)の読み書きを練習し、基本文型の習得や応用練習を通じて韓国語の基礎をしっかりと学ぶ。また、韓国語での基礎表現に自信を持てるように、簡単な日常会話や表現ができるように演習を重ねる。 (授業目標) A：学習目標に興味を持ち、グループワークに積極的に参加することができる。 ◎B：基本的な日常会話を覚え、正しい韓国語を話すことができる。 C：学習内容の応用練習を通じ、学習問題を解くことができる。 ○D：語彙力を増やし、聞き取りができるようになる。 E：様々な教室活動の中で自分の考えを取り入れて表現することができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス及び文字と発音(基本母音) (グループワーク：必ず全員参加。韓国語で挨拶) 韓国語の自己紹介表現の紹介と練習。 授業内容と計画などを紹介。 韓国語文字(ハングル)の紹介と基本母音字(10個)習得。</p> <p>2 文字と発音(基本子音) 基本母音字(10個)復習。 基本子音字(14個)習得。</p> <p>3 文字と発音(合成母音) 基本母音・子音字の復習。 合成母音字の(11個)の習得。</p> <p>4 文字と発音(濃音、終声音) 基本母音・子音・合成母音の復習。 濃音(5個)と終声音(パッチム)の習得。</p> <p>5 文字と発音(総合練習)、基本挨拶 (グループワーク：ハングル読む練習。自分の名前をハングルで書いてみること。) ハングルの読み書き総合練習・確認。 挨拶表現紹介・教室用語紹介。</p> <p>6 日常会話① 私は日本人です (グループワーク：会話文実習) 挨拶・自己紹介 ～は 名詞＋～です。名詞＋～ですか？(丁寧語)</p> <p>7 日常会話② 日本人ではありません (グループワーク：会話文実習) 否定の言い方。(否定文) ～が 名詞＋～ではありません。(丁寧語) 授業前に小テスト：日常会話①復習</p> <p>8 日常会話③ それは何ですか 指示詞を使う言い方。 名詞＋～です。名詞＋～ですか？(カジュアル丁寧語) 名詞＋～ではありません。(カジュアル丁寧語) 授業前に小テスト：日常会話②復習</p> <p>9 日常会話④ 約束があります (グループワーク：会話文実習(約束、家族構成など)) 存在の表現。(丁寧語、カジュアル丁寧語) あります、います。 ありますか？いますか？ 授業前に小テスト：日常会話③復習</p> <p>10 日常会話⑤ 会社はどこにありますか (グループワーク：位置を表す表現練習) 位置を表す表現。 ～はどこにありますか？ ～にあります。 授業前に小テスト：日常会話④復習</p> <p>11 日常会話⑥ 週末は何をしますか (プレゼンコンテスト：動詞と形容詞の丁寧語について全員が発表) 動詞と形容詞の丁寧語。 動詞＋～ます。/ 形容詞＋～です。 動詞＋～ますか？/ 形容詞＋～ですか？ 授業前に小テスト：日常会話⑤復習</p> <p>12 日常会話⑥ 週末は何をしますか (グループワーク：並列の表現練習) 動詞と形容詞単語の暗記確認。 動詞と形容詞の丁寧語復習 並列の表現(～して、～くて) (ICTの活用 クリッカー：動詞と形容詞の単語及び丁寧語復習)</p> <p>13 日常会話⑦ そんなに遠くありません (グループワーク：動詞と形容詞の否定文練習) 動詞と形容詞の否定文。 動詞＋～ではありません。</p>

	<p>14 形容詞＋～くありません。 ～から～まで 授業前に小テスト：日常会話⑥復習 日常会話⑧ いつ行きますか (グループワーク：漢数字の練習) 漢数詞の習得。 日にち、値段、番号…などの数字を読む。 感嘆や同感の表現 (～ですね。～ますね。) 授業前に小テスト：日常会話⑦復習</p> <p>15 日常会話⑧ いつ行きますか。(プレゼンコンテスト：日常会話①～⑧の内容を使い会話文作成) 漢数詞の復習 固有数詞の紹介 総合まとめ 授業前に小テスト：日常会話⑧復習 全員でプレゼンテーション：グループ別に今まで覚えた単語や文型を使い会話文を作成、発表。</p>
到達目標・基準	<p>A：グループで話し合いや実習を通じ韓国語に抵抗なく勉強することができる。 ◎B：韓国語で挨拶や自己紹介ができる。 C：日にち・値段・番号などを読むことができる。 ○D：簡単な質問にはい・いいえと答えることができる。 E：自分の感情を形容詞を使い韓国語で表現できる。</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(5分) CDを聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(10分) 事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(20分) CDを聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、内容によりパワーポイント等を使用する。 一方的な講義ではなくグループワーク、実習、プレゼンテーション等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却後に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う。</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：グループ内で参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：プレゼンや提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、授業への参加態度・貢献度30%、課題・小テスト等20%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版, 2018年5月1日新装版
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 グループワークには積極的に参加すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション
I C T の活用	クリッカー

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	総合：選択
担当教員			
姜 瑢嬉			
Subject Code:G16C40			

授業内容 授業目標 A：主体性・チームワーク・責任感 B：コミュニケーション能力 C：思考力・判断力 D：知識・理解 E：技能・表現	(授業概要) 教科書に沿って簡単な日常会話を学び、自分の意見や考えなどを伝える文ができるように練習を重ねる。 【授業目標】 A：グループワークをクラスで協働しながら、楽しく韓国語を身に付ける。 ◎B：簡単な韓国語の質問に答えることができる。 C：正しい単語を使い答えることができる。 ○D：基本文型や文法が理解できる。 E：語彙を増やして、自分の意見を表現できる。		
授業計画	1	ガイダンスと韓国語1の復習 授業内容と計画などを紹介。 韓国語1の復習と総合練習。	
	2	日常会話⑨ プサンまでどうやって行きますか (プレゼンテーション) カジュアル丁寧語習得。 ～です。～ます。 プレゼンコンテスト：カジュアル丁寧語について発表。	
	3	日常会話⑨ プサンまでどうやって行きますか (グループワーク：会話文実習) 内容復習。 会話文を使い練習。	
	4	日常会話⑩ 何時からですか (グループワーク：固有数字の練習) 固有数字の習得。 時間・回・才・個数…などを数えながら読む。 授業前に小テスト：日常会話⑨復習	
	5	日常会話⑪ いつ日本へ来ましたか (グループワーク：過去形の練習) 過去形の表現。 動詞・形容詞・名詞文それぞれの過去形。 授業前に小テスト：日常会話⑩復習	
	6	日常会話⑫ お名前は？ (グループワーク：会話文実習) 敬語の表現。 動詞・名詞文の敬語。 助詞の敬語。 授業前に小テスト：日常会話⑪復習	
	7	日常会話⑬ どちらへ行っていましたか (グループワーク：尊敬の過去形の練習) 敬語の過去形の表現。 動詞・名詞文の敬語の過去形。 授業前に小テスト：日常会話⑫復習	
	8	日常会話⑭ 日本と韓国は似てるけど、けっこう違うでしょう？ (グループワーク：逆接の表現練習) 確認の表現。 ～でしょう？～よね？ 逆接の表現。 ～が、～けれども 授業前に小テスト：日常会話⑬復習	
	9	日常会話⑮ 温泉に行きたいです (グループワーク：会話文実習) 希望の表現。 ～したいです。 ～したっています。 授業前に小テスト：日常会話⑭復習	
	10	日常会話⑯ プレゼントを買うのでお金をたくさん使います (グループワーク：理由・原因の表現練習) 理由・原因の表現。 ～ので 不規則活用(変則) 授業前に小テスト：日常会話⑮復習	
	11	日常会話⑰ 結婚式に何を着ていけばいいですか (グループワーク：許可を求める表現練習) 許可を求める表現。 ～してもいいですか。 ～すればいいですか。 仮定・条件の表現。 ～ば、～たら 授業前に小テスト：日常会話⑯復習	
	12	日常会話⑱ 食事でも一緒にしましょうか (グループワーク：勧誘の表現練習) 勧誘の表現。 ～しましょうか。 ～しましょう。	

	<p>13 目的の表現。 ～しに行きます。 授業前に小テスト：日常会話⑰復習 日常会話⑱ 写真をちょっと撮っていただけますか (グループワーク：依頼の表現練習) 依頼の表現。 ～していただけますか。 ～してください。</p> <p>14 ～ですが(ますが)、～していただけますか?/～てください。 授業前に小テスト：日常会話⑲復習 日常会話⑳ 自転車に乗ることができますか (グループワーク：可能・不可能の表現練習、現在進行形の練習) 能力・可能の表現。 ～することができます。 不可能の表現。 ～することができません。 現在進行の表現。 ～しています。 授業前に小テスト：日常会話⑲復習</p> <p>15 総合まとめ 韓国語1と韓国語2のまとめ 授業前に小テスト：日常会話⑳復習 (ICTの活用 クリッカー：韓国語1と韓国語2の文型)</p>
到達目標・基準	<p>A：会話文をグループで練習しながら、楽しく覚えられる。 ◎B：カジュアル丁寧語を使い話することができる。 C：過去形が区別できる。 ○D：韓国語の時間、年齢などが理解できる。 E：漢数字・固有数詞を使い話することができる。(旅行に役立つ韓国語一買い物、注文など)</p>
事前・事後学習	<p>事前学習：教科書の語彙を予習として覚えること。(20分) 教科書の文法内容を読んで学習内容について調べること。(5分) CDを聞きながら実際に声を出して発音の練習をすること。(10分)</p> <p>事後学習：教科書の文型練習や応用練習を解いてみること。(20分) CDを聞きながら声を出して練習し、内容を覚えること。(10分) 覚えにくい語彙や文法内容をノートに書きながら整理すること。(10分)</p>
指導方法	<p>教科書をメインにして順序よく進め、内容によりパワーポイント等を使用する。 一方的な講義ではなくグループワーク、実習、プレゼンテーション等を積極的に取り入れる。 フィードバックの仕方：課題については返却後に個別対応する。小テストを行い、採点・返却時に解説を行う</p>
成績評価の方法・基準	<p>A：グループ内で参加態度や授業貢献度を評価する。 B：授業中の参加態度及び質疑対応を評価する。 C：小テスト、課題を評価する。 D：定期試験を評価する。 E：プレゼンや提出物を評価する。</p> <p>定期試験50%、授業への参加態度・貢献度30%、課題・小テスト等20%</p>
テキスト	李志暎『できる韓国語 初級 I』DEKIRU出版, 2018年5月1日新装版
参考書	
履修上の注意	<p>毎回の授業内容が大事ですので、やむを得ない事情以外には出席してください。 予習・復習をとぎれることなく積み重ねていきましょう。 グループワークには積極的に参加すること。</p>
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション
ICTの活用	クリッカー